へ13
3696
2

新増補
西國奇談
四編

爲永春水補綴

一壽齋國貞画

非題曲亭馬琴

下

上

喜鶴堂板

歌川國貞畫

西國奇談 五編

爲永春水綴

外題曲玉団五

喜雀堂梓

下

上

西國奇談六編

為永春水發

一壽齋國貞画

外題蓋ろ閑宝

喜鶴堂板

上

下

13
へ
3696
門
號
卷 2

新增補 西鶴諸國ばなし 六編

森鷗堂梓

下の巻

這編の下の巻を出しゝる。投扇興は漢土ある。投壺の遊びの變風ゆゑく。正徳の年間より專ら大内ゐ玩ぶとし。と其頃の夫も見られば最多びる遊戯ゆゑく席上の掟やも。孟盤狼藉堅く禁しめ。諸勝負賭事戒忌とぞゐん。尓る哉鷲塚近邊等う賭物ゐんどゐゝるへ素り咎あらんやど。柴六親子ゲ積悪を。綴らんまでの條立ある哉。看官宜しく推察就く投壺の考證も。いさゝうあきふかくども。余紙あらざるべば這處ゐ洩しつ。然べ此篇稍稿成く。序のあとまふその理言をちぎりあげら櫻木ゐ載もを

丁巳孟春新鐫

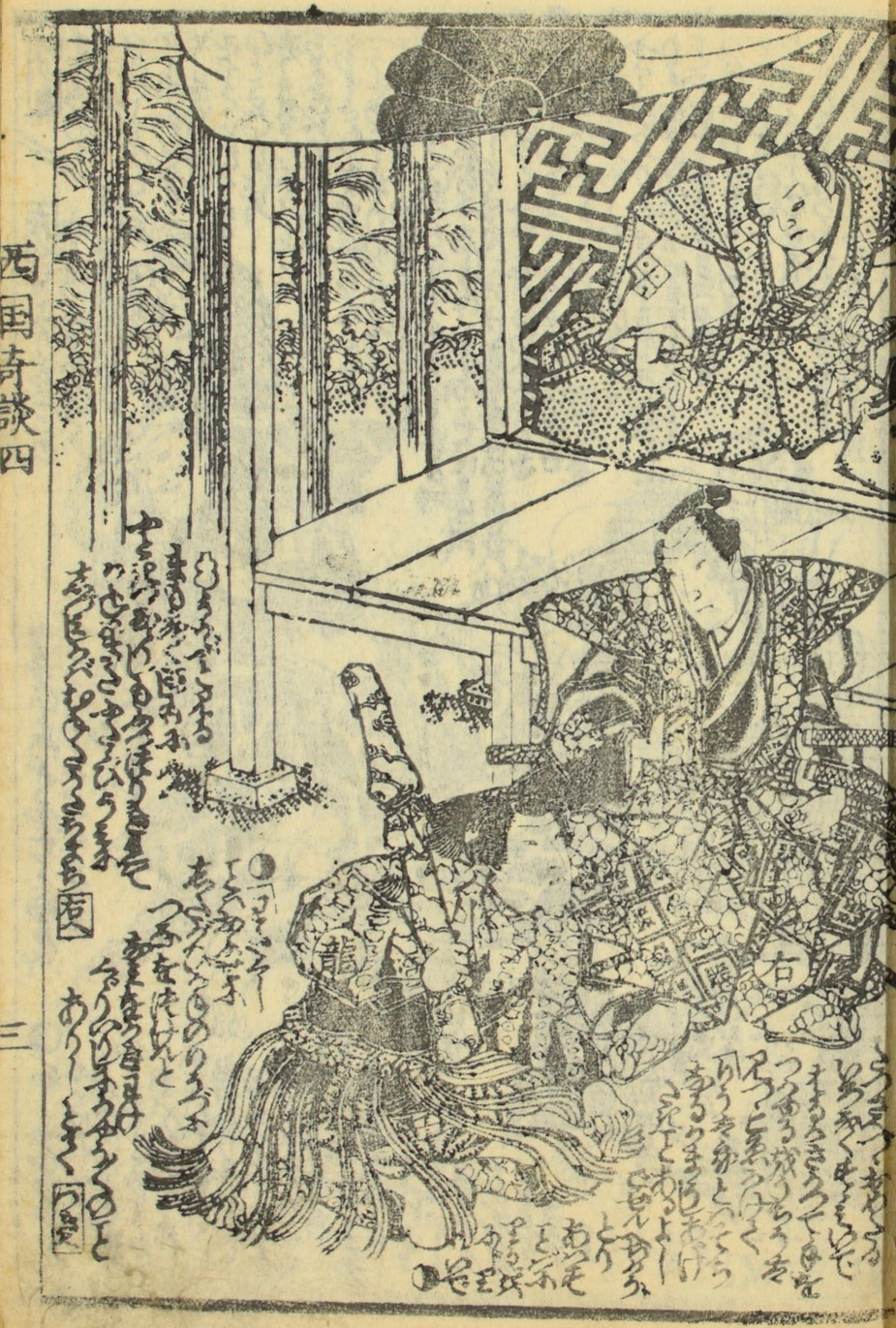
爲永春水誌

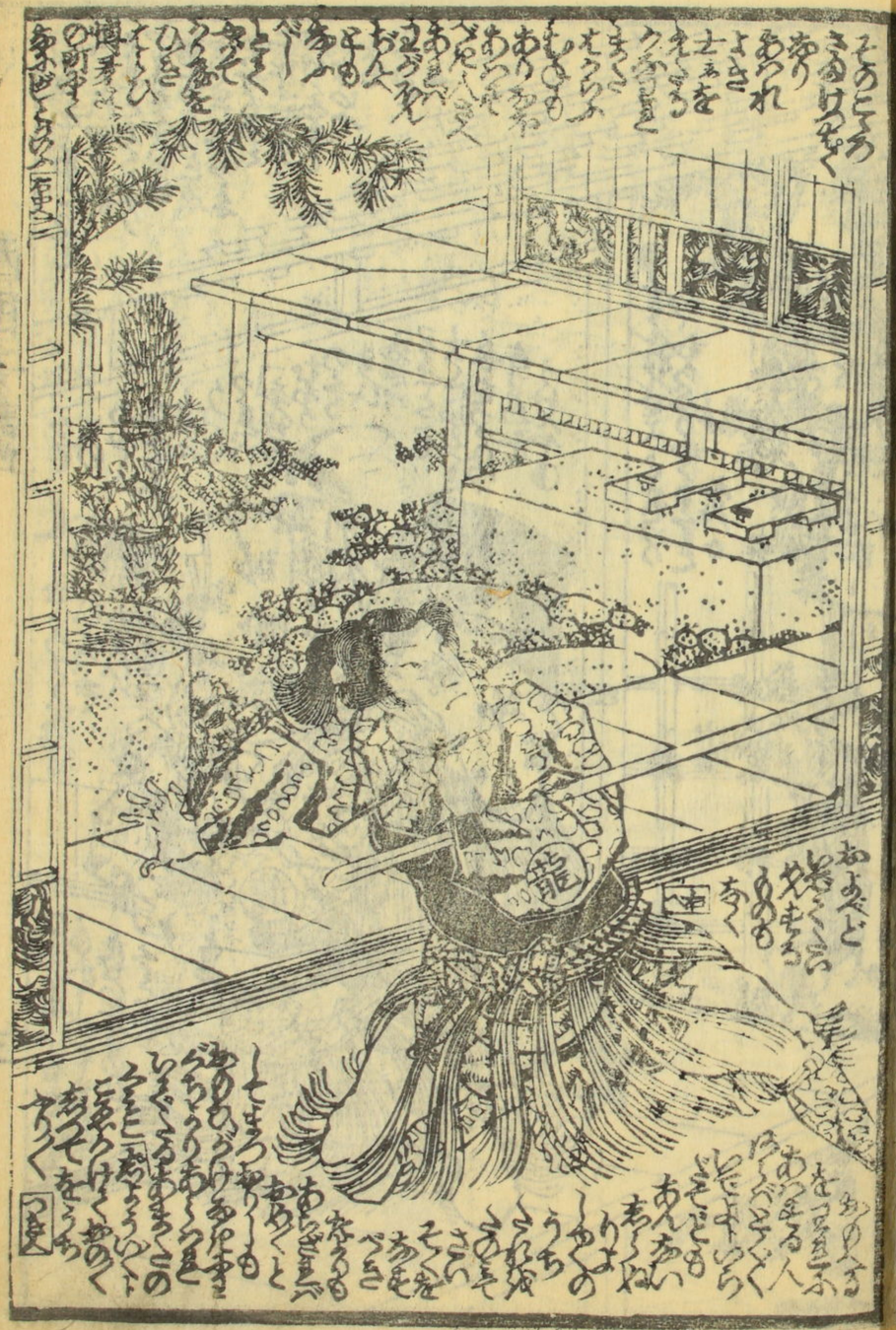
西國寺炎四

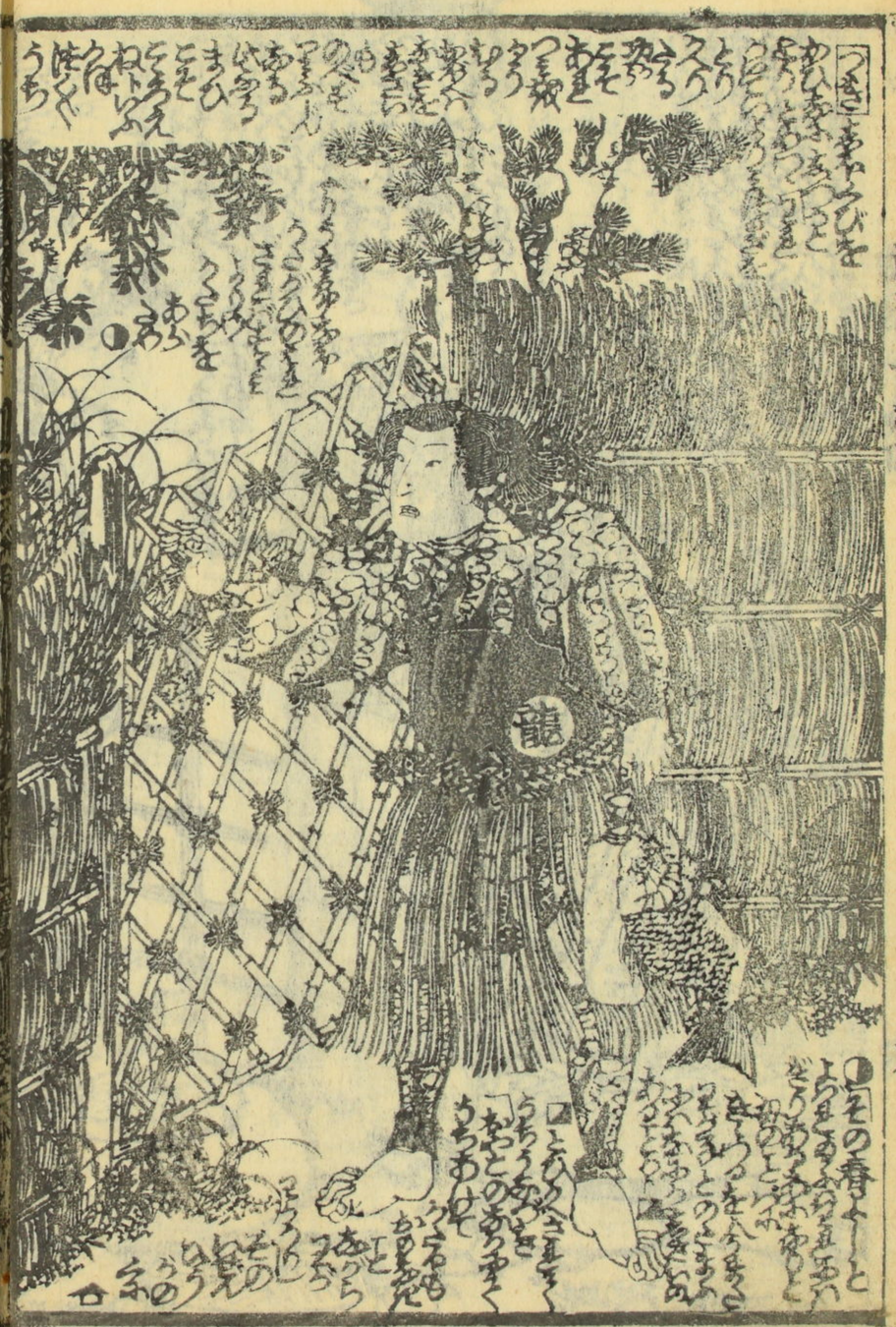
阿竜

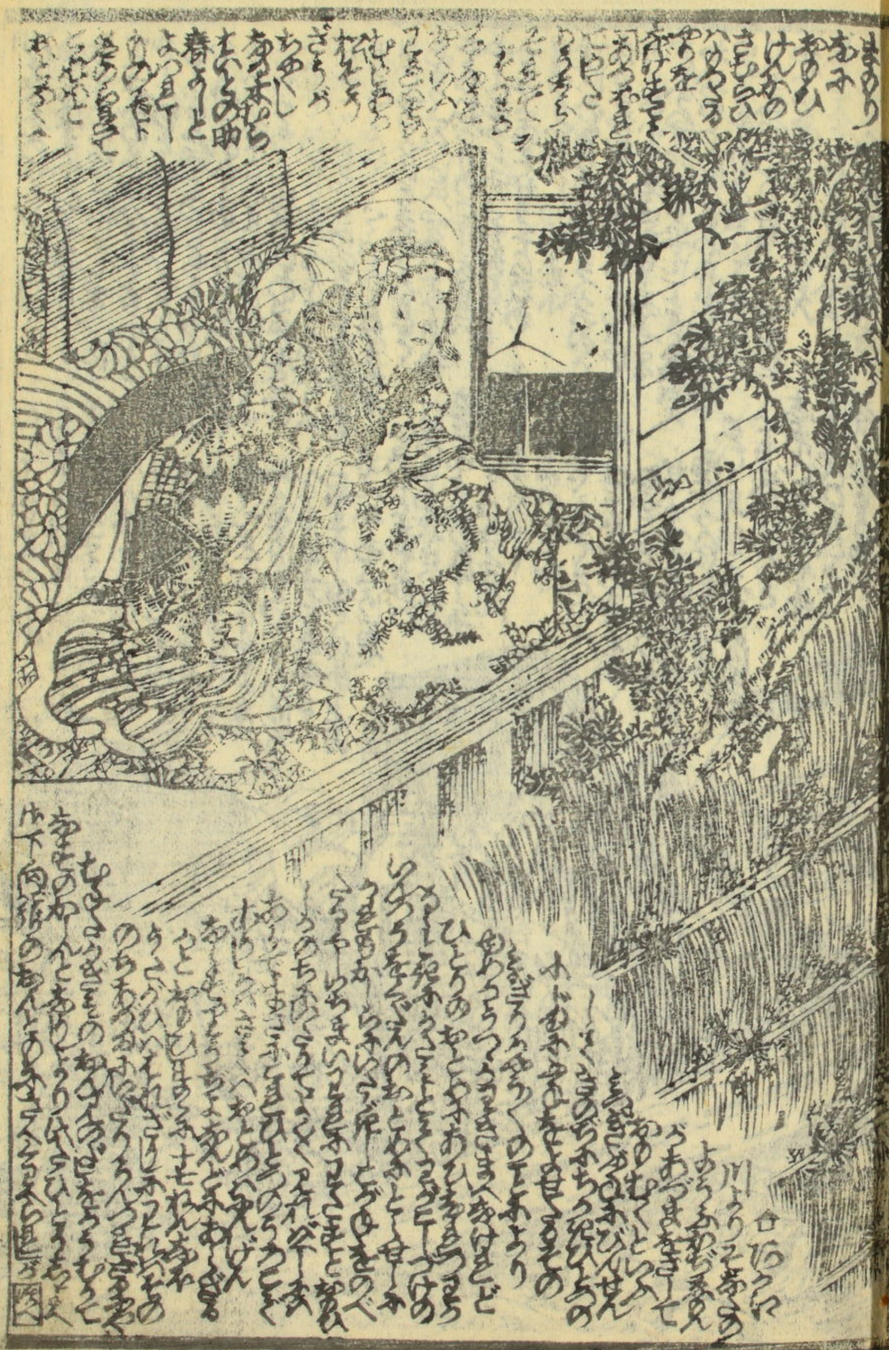
鷲塚(わしづか)八五郎(はちごろう)

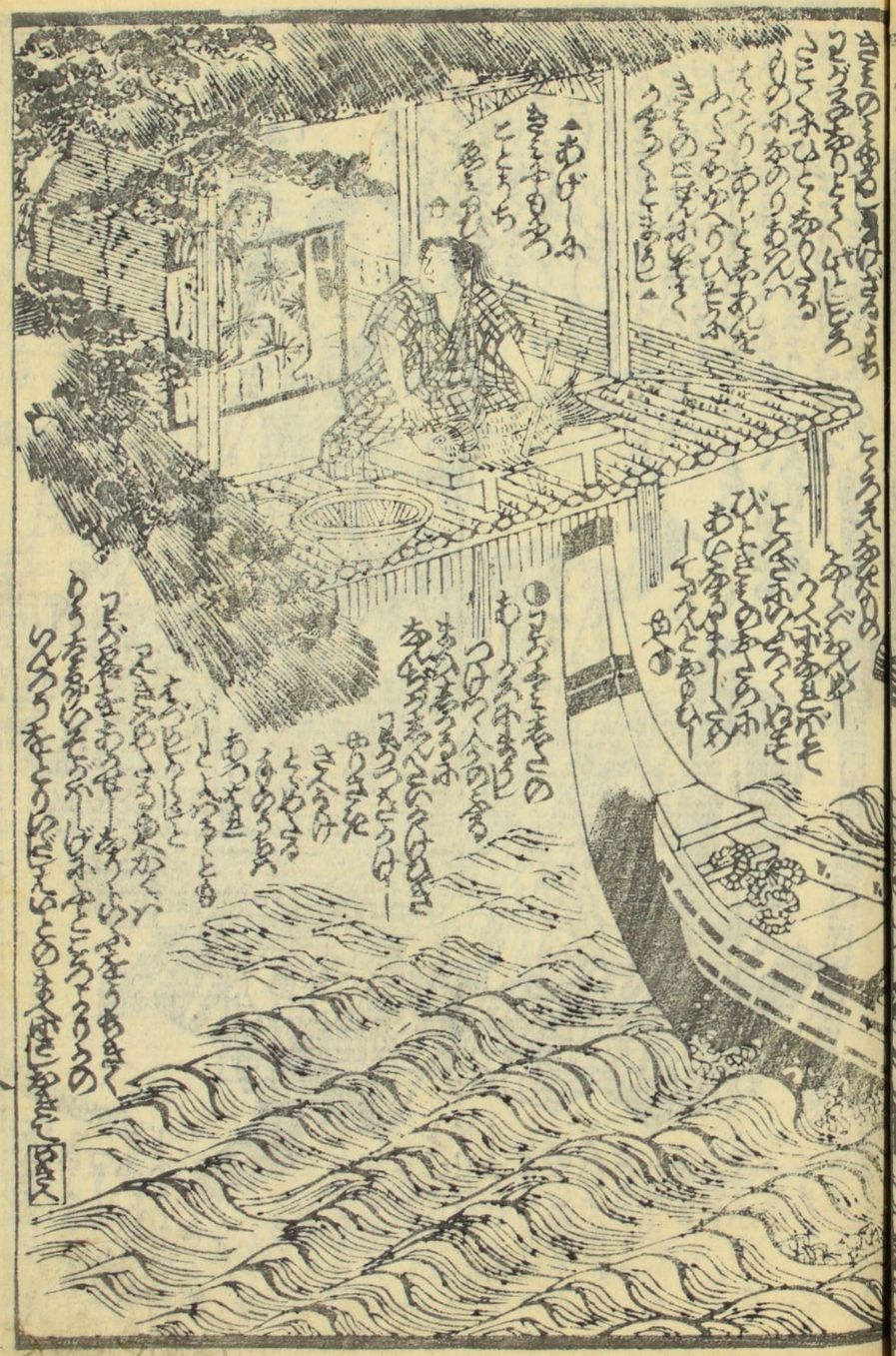
宗


龍
右





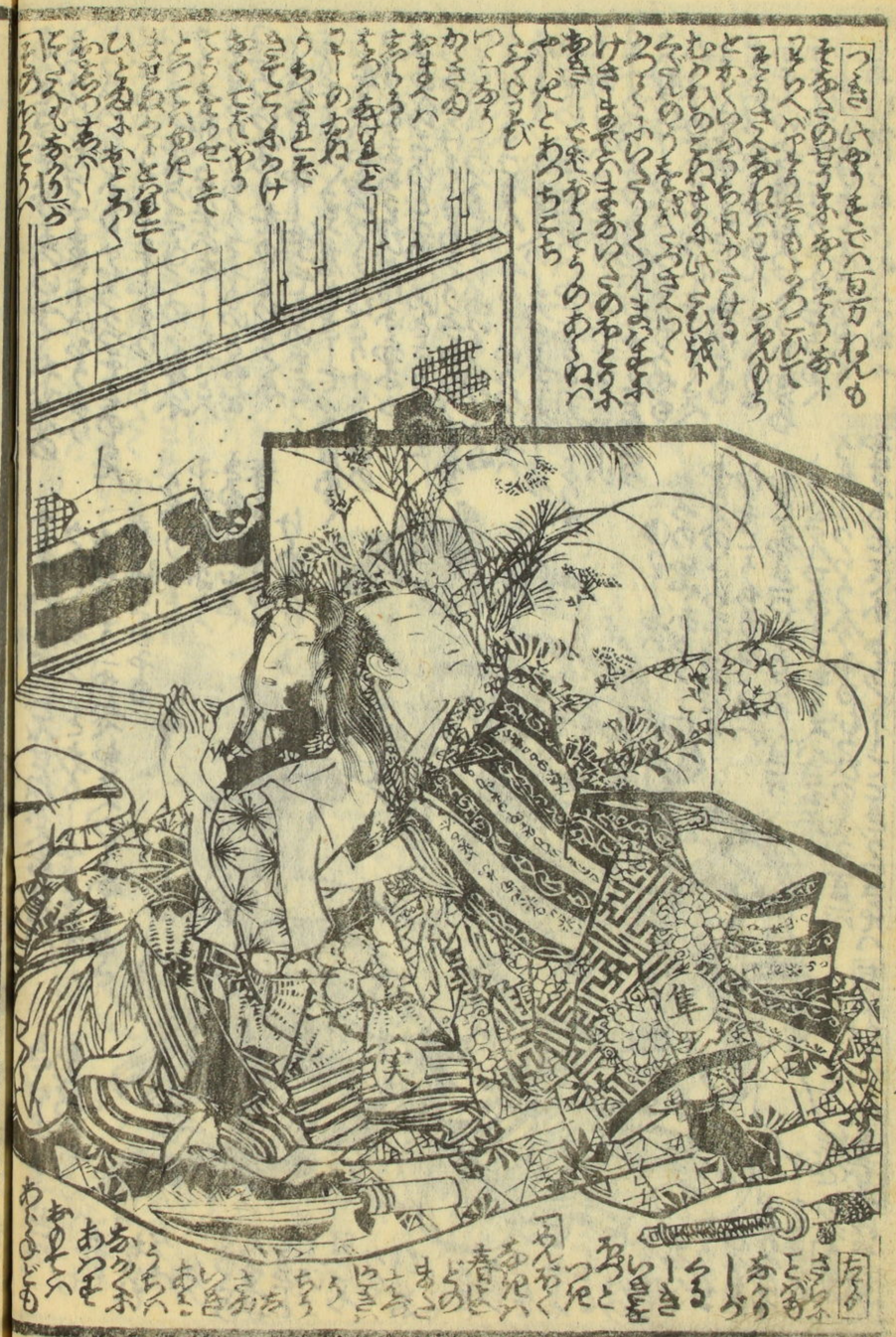




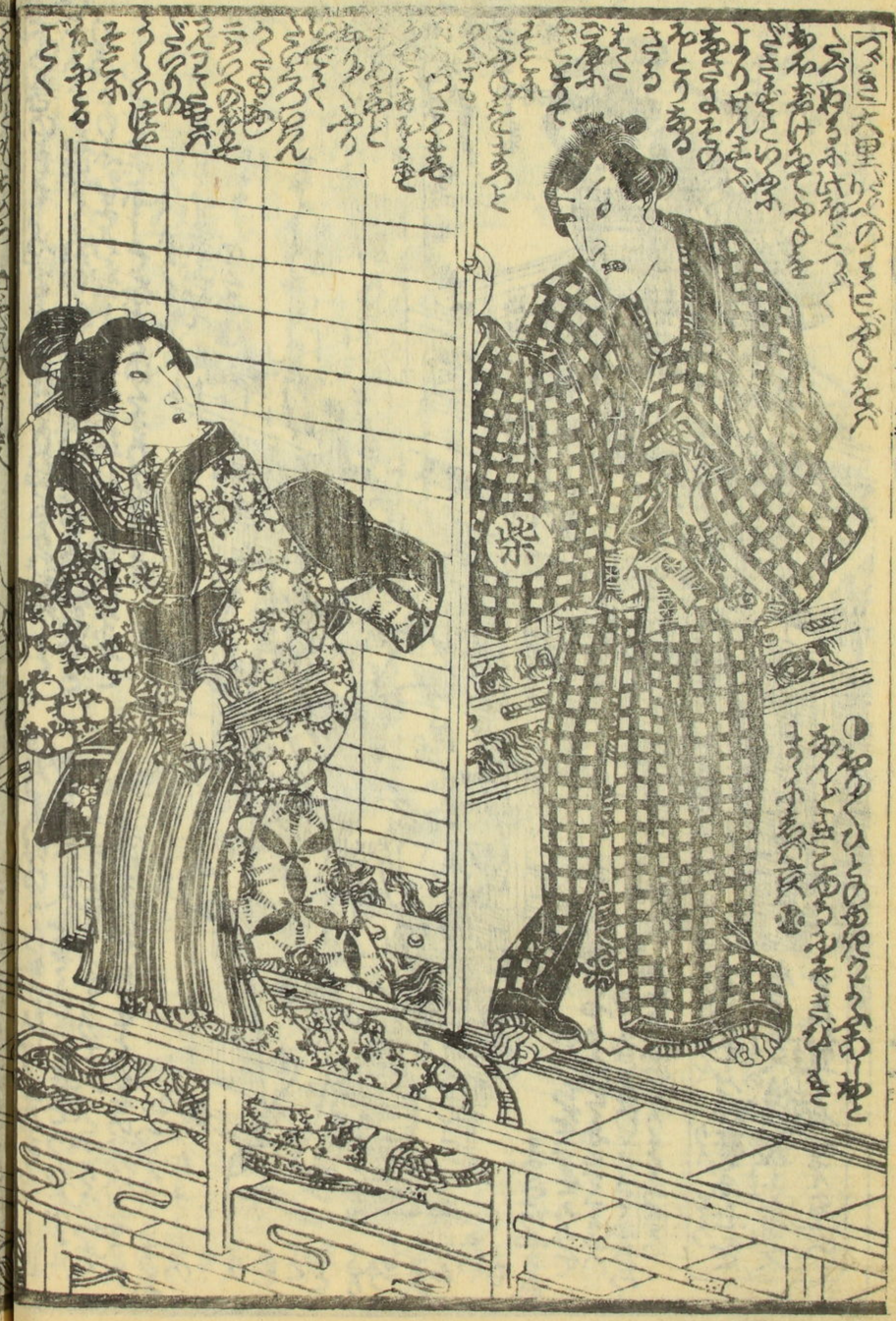
皐
右

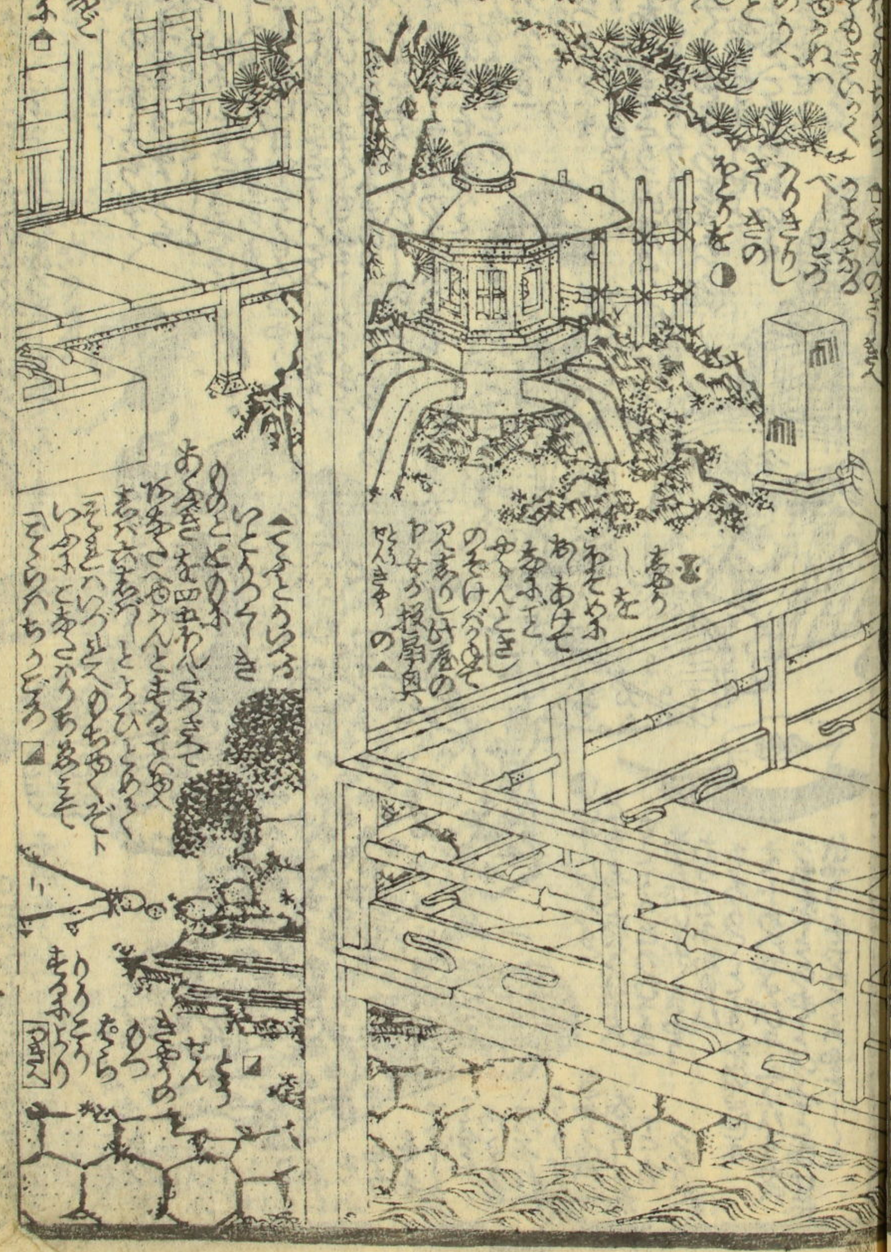
右
庫

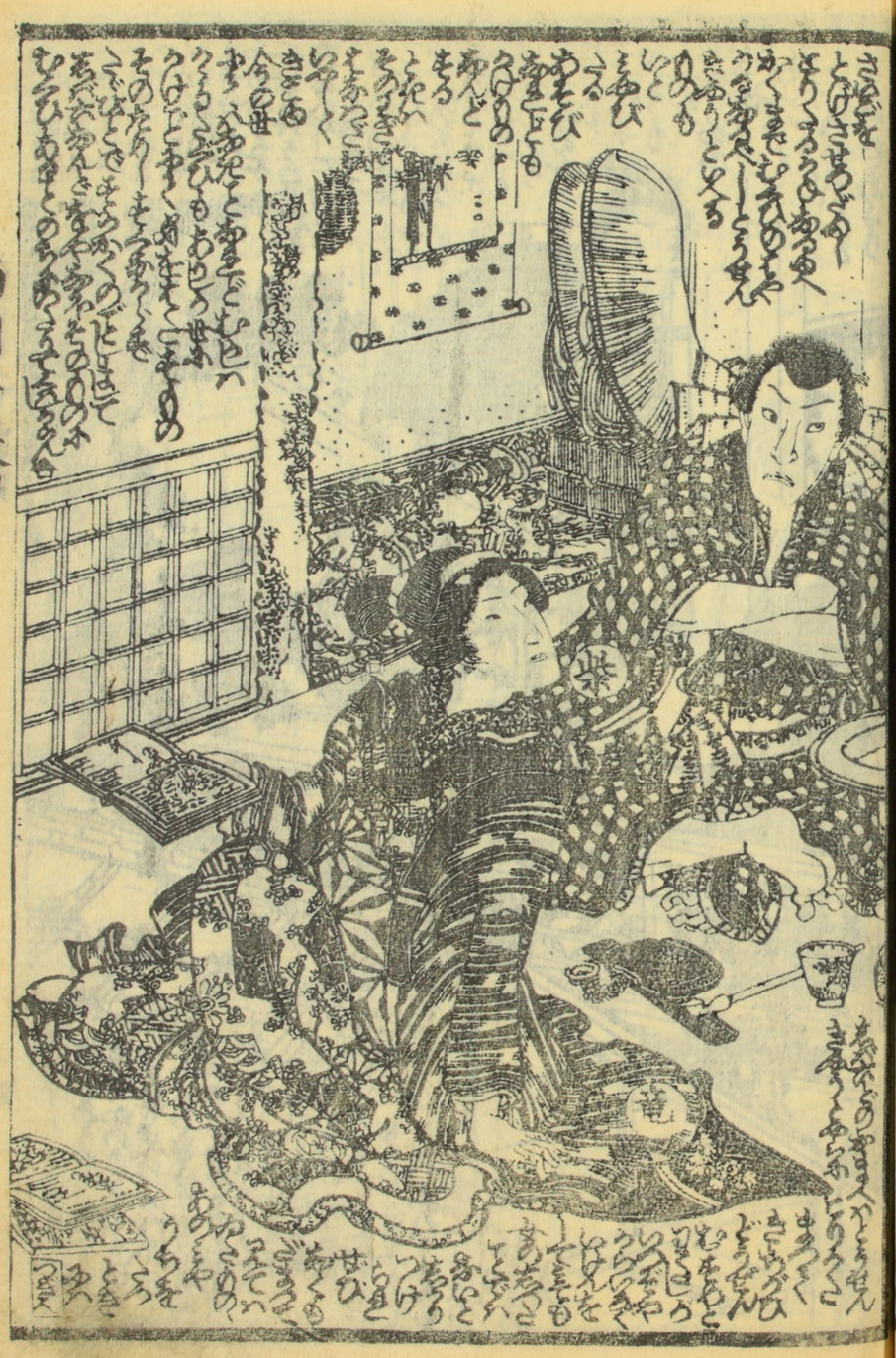
龍
実

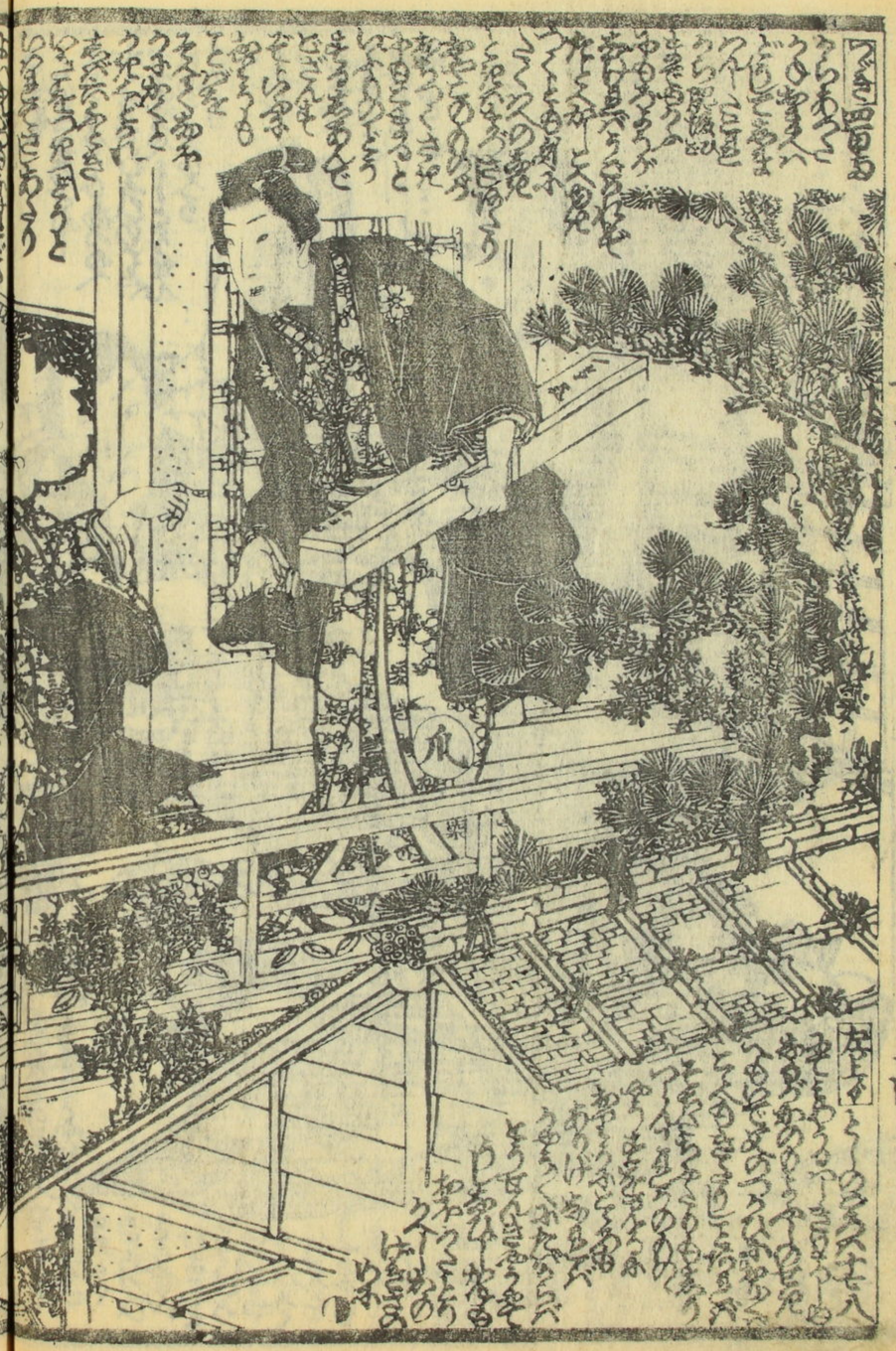


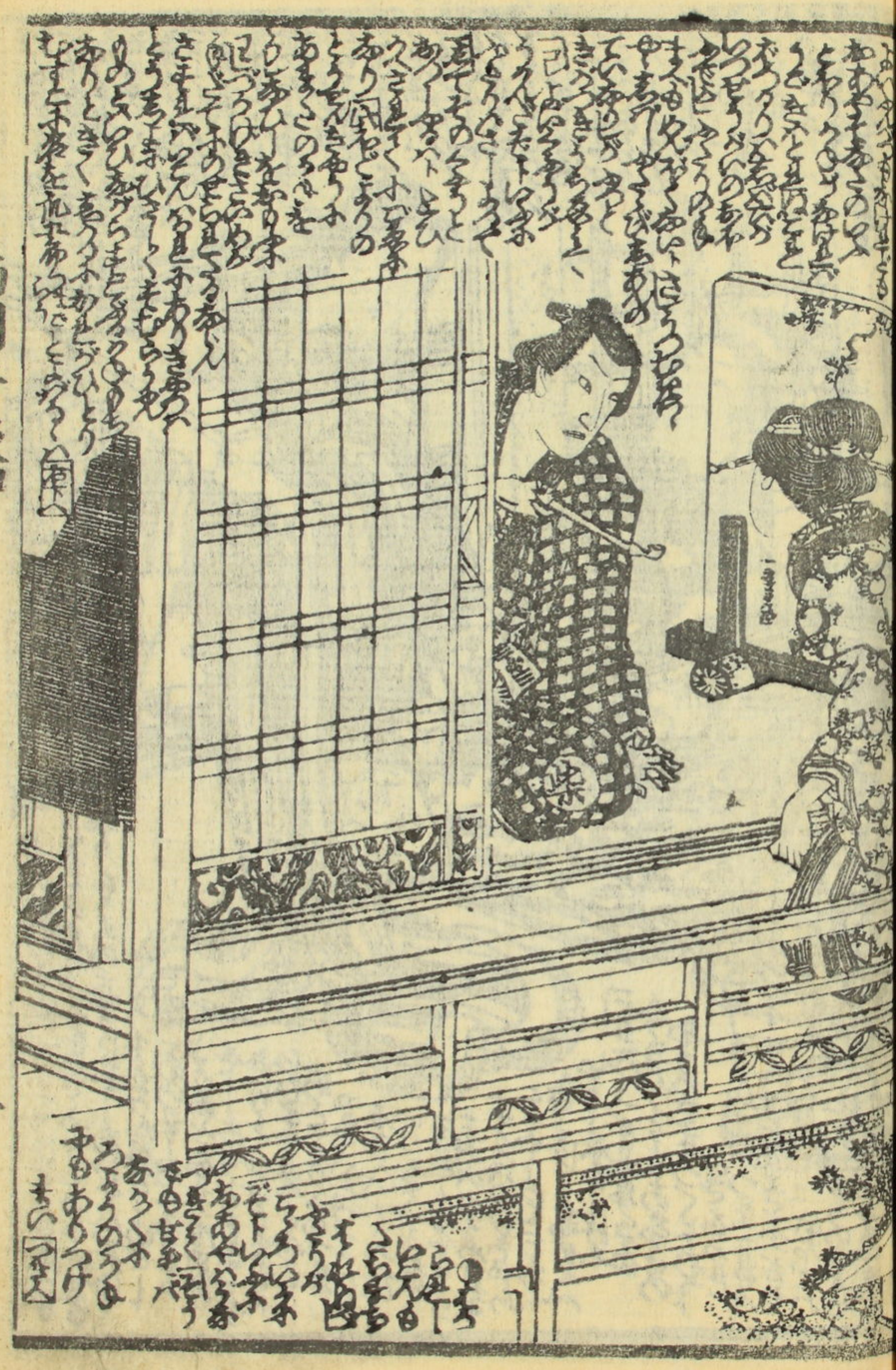
國貞画 春水補綴


紫









柴
庵
丸

竹

凡

柴

朝牛肉鮮 一色 百鋼
對品屋數 深崎氏製

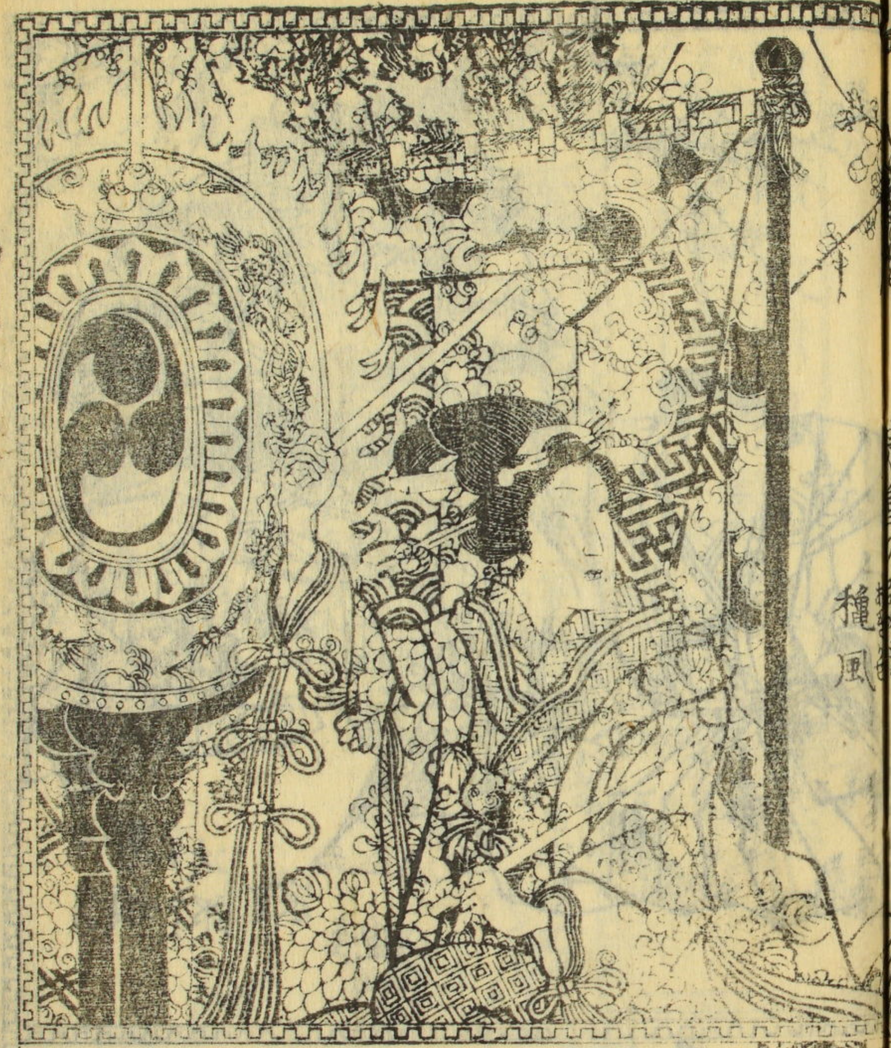
爲永春水補綴 梅蝶樓國貞画

扇の的のおもてを摸七
下の文字の一助とそ

西海道十一箇州へ。
總て海岸多ゐ稀多り。尓ゝ名所
旧跡も多くゐ海辺多るゐのゐら今迄
西国奇談を綴るゐ。強ゐ勝地をのとゐ。
その名所ゐ寄ゐゐども文中自と海ゐ
臨ゐ。重ゐ随つて水辺の赴きゐのゐ押
うゐゐ。愚ゐ案ゐの及ゐね故多ゐら。
硯の海も涙立までゐ。
世話ゐき机ゐ

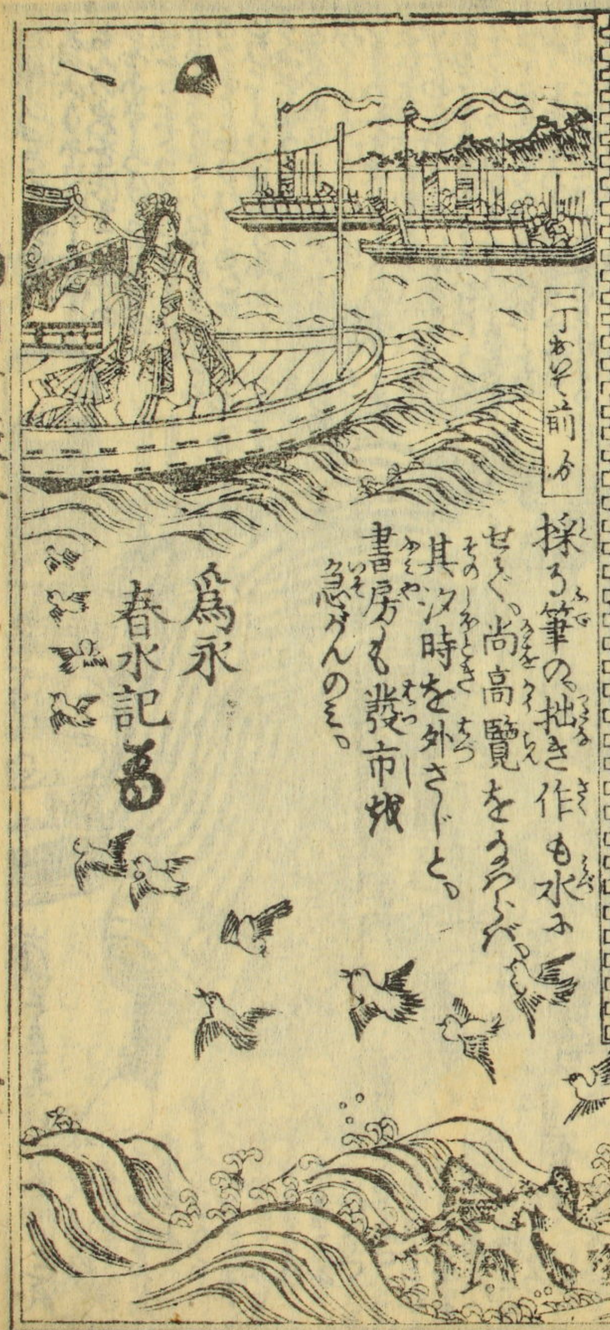
那須与市宗高

宗重の側妾
うろめ
虚井



宗重の雑掌
稲風

那須次郎宗重



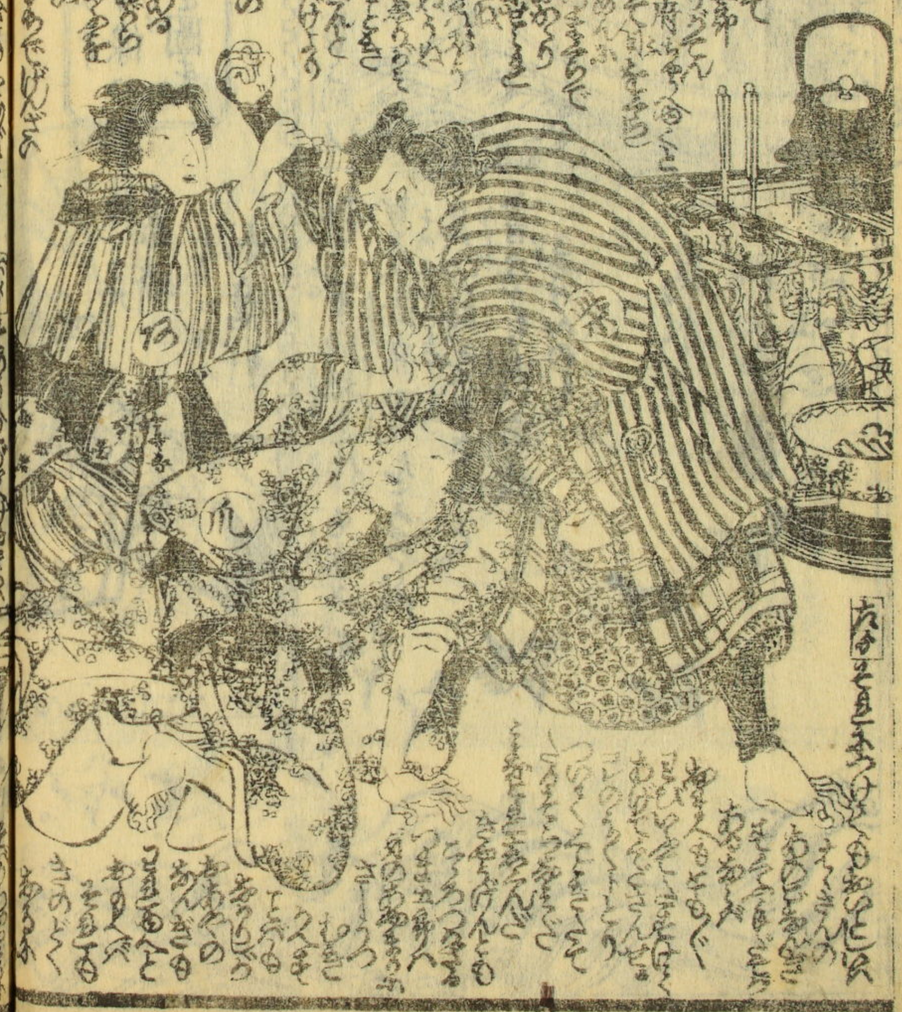
一丁あそ前方

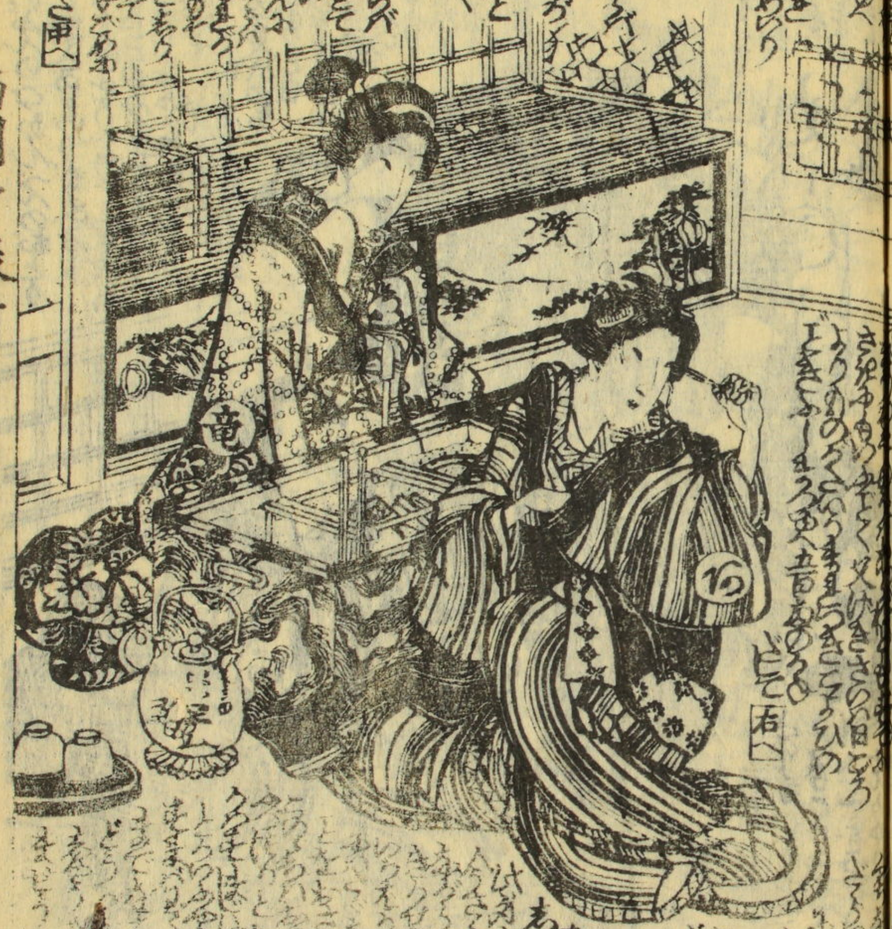
前後二員の小像ハ次編の腹稿を圖せんとす

素崎妙意軒

採る筆の拙き作も水ゐ
せんく尚高覽をうらべ
其夕時を外さゞると。
書房も急げんのそ。

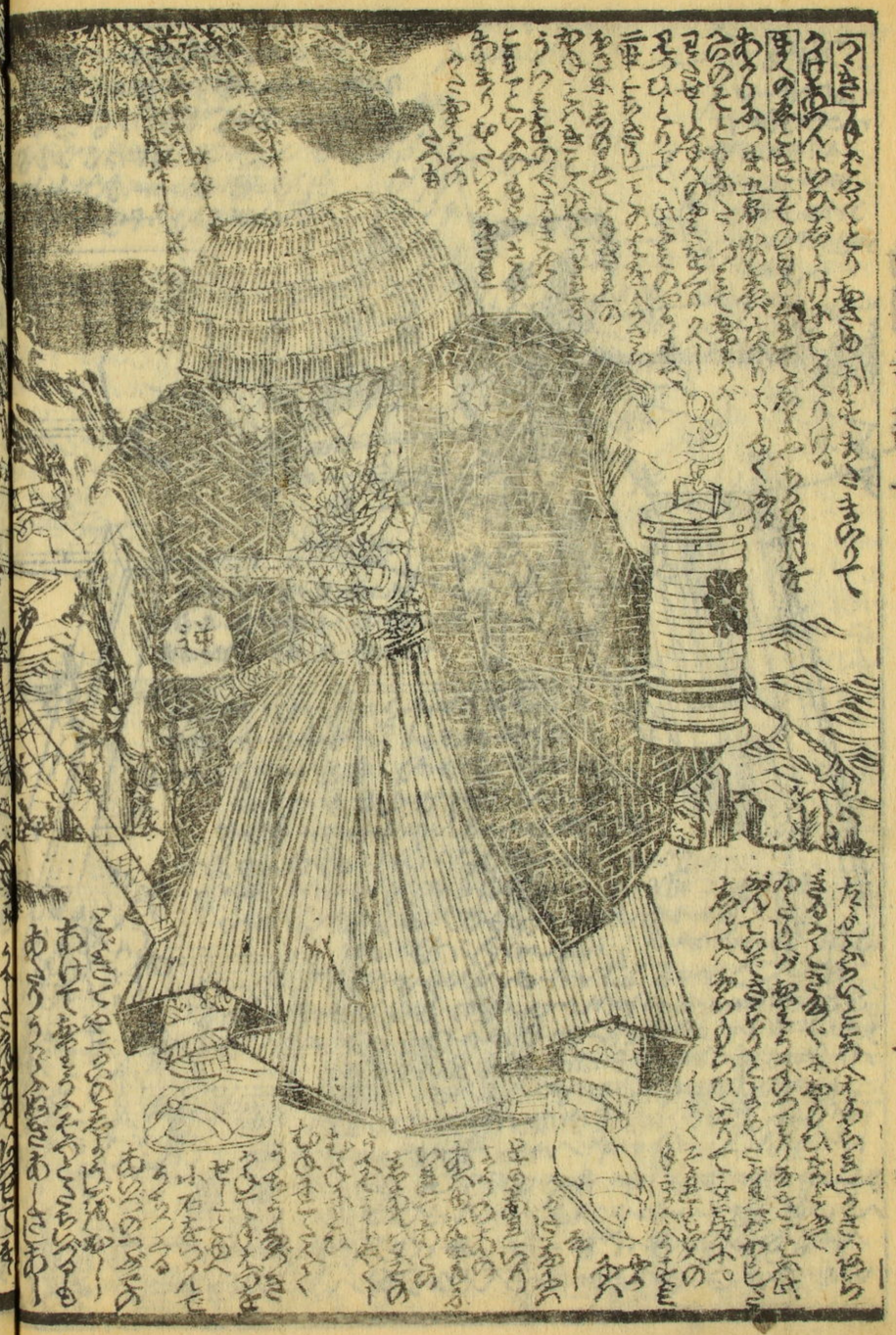
爲永春水記

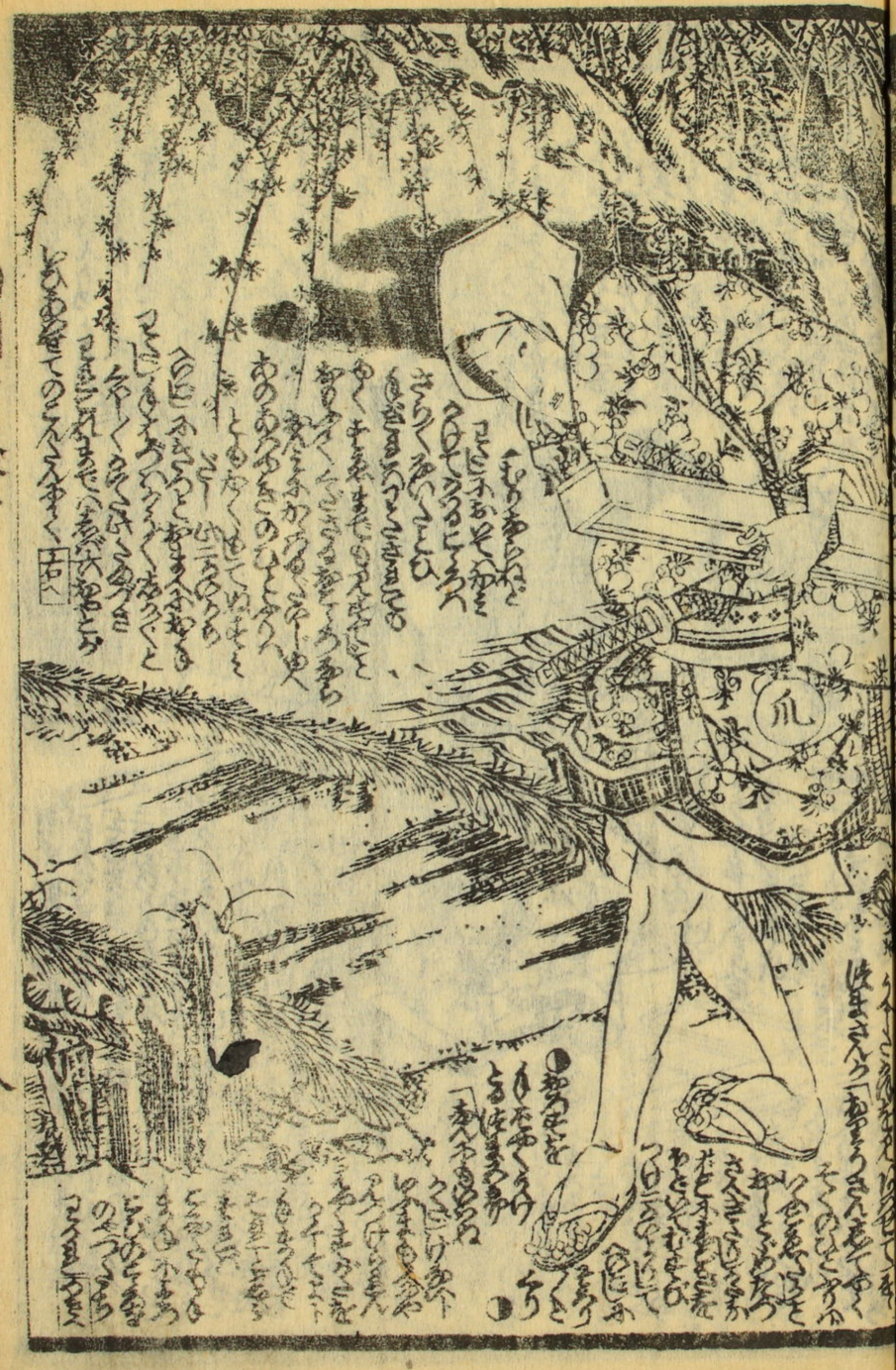


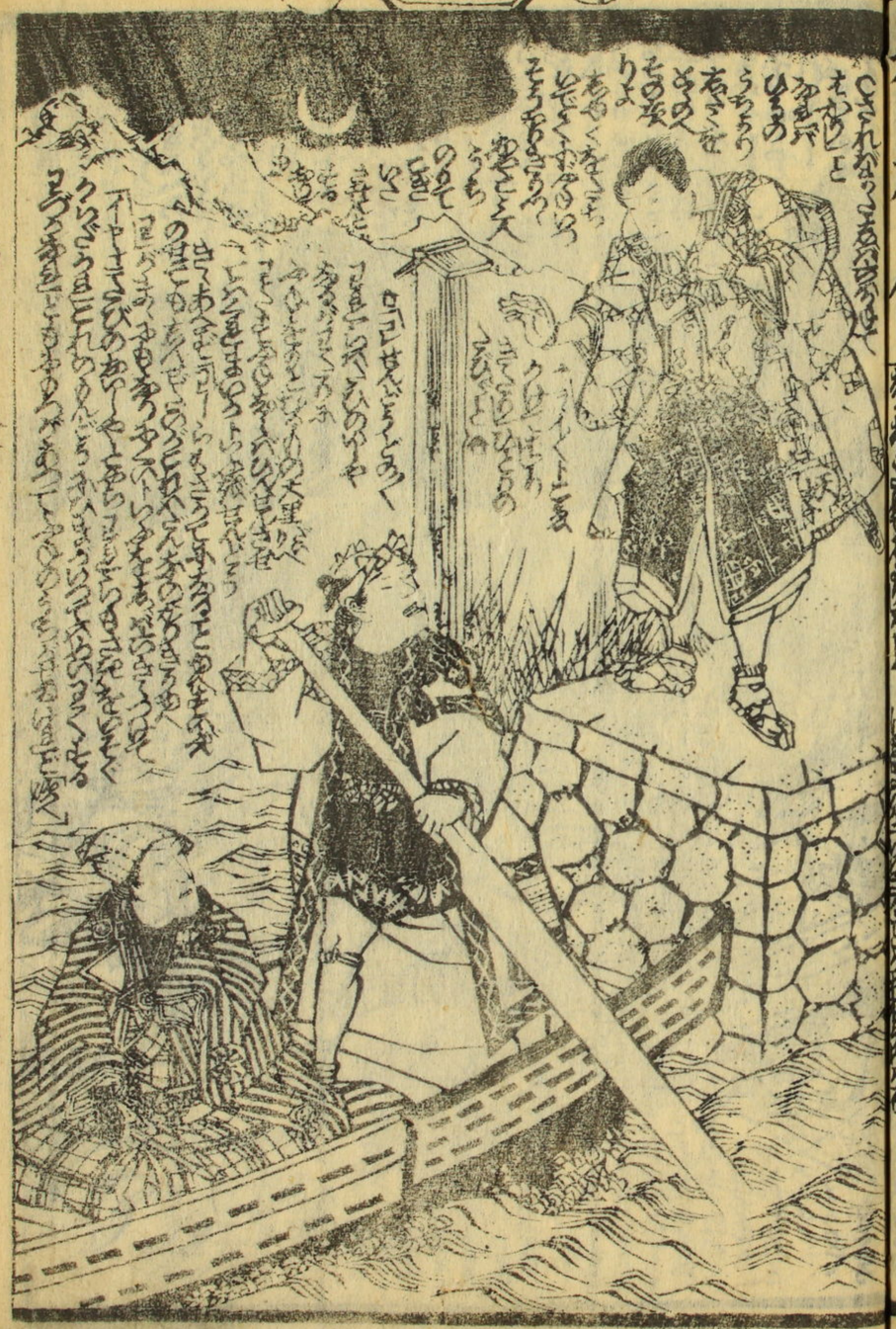


柴

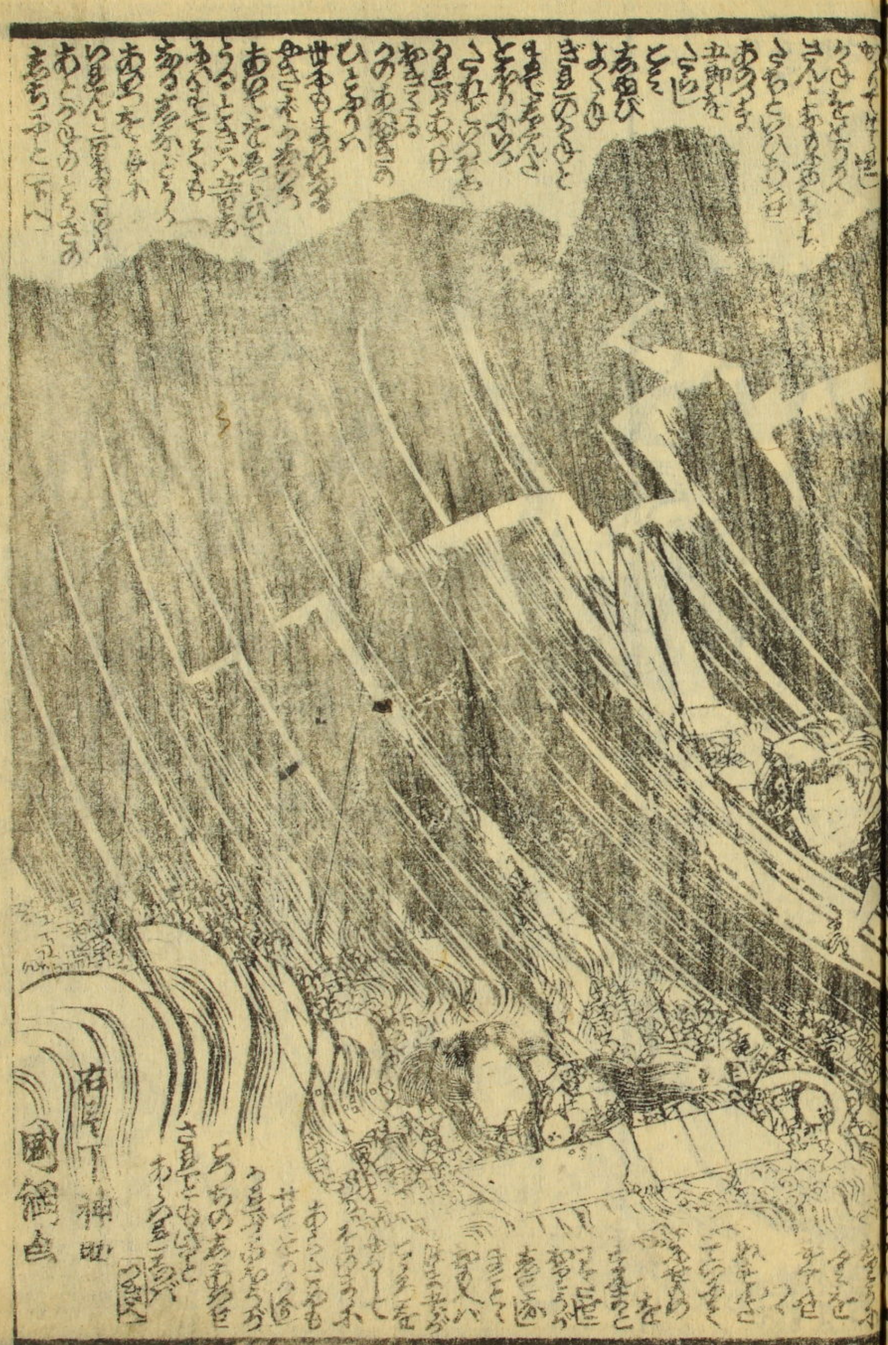
竜

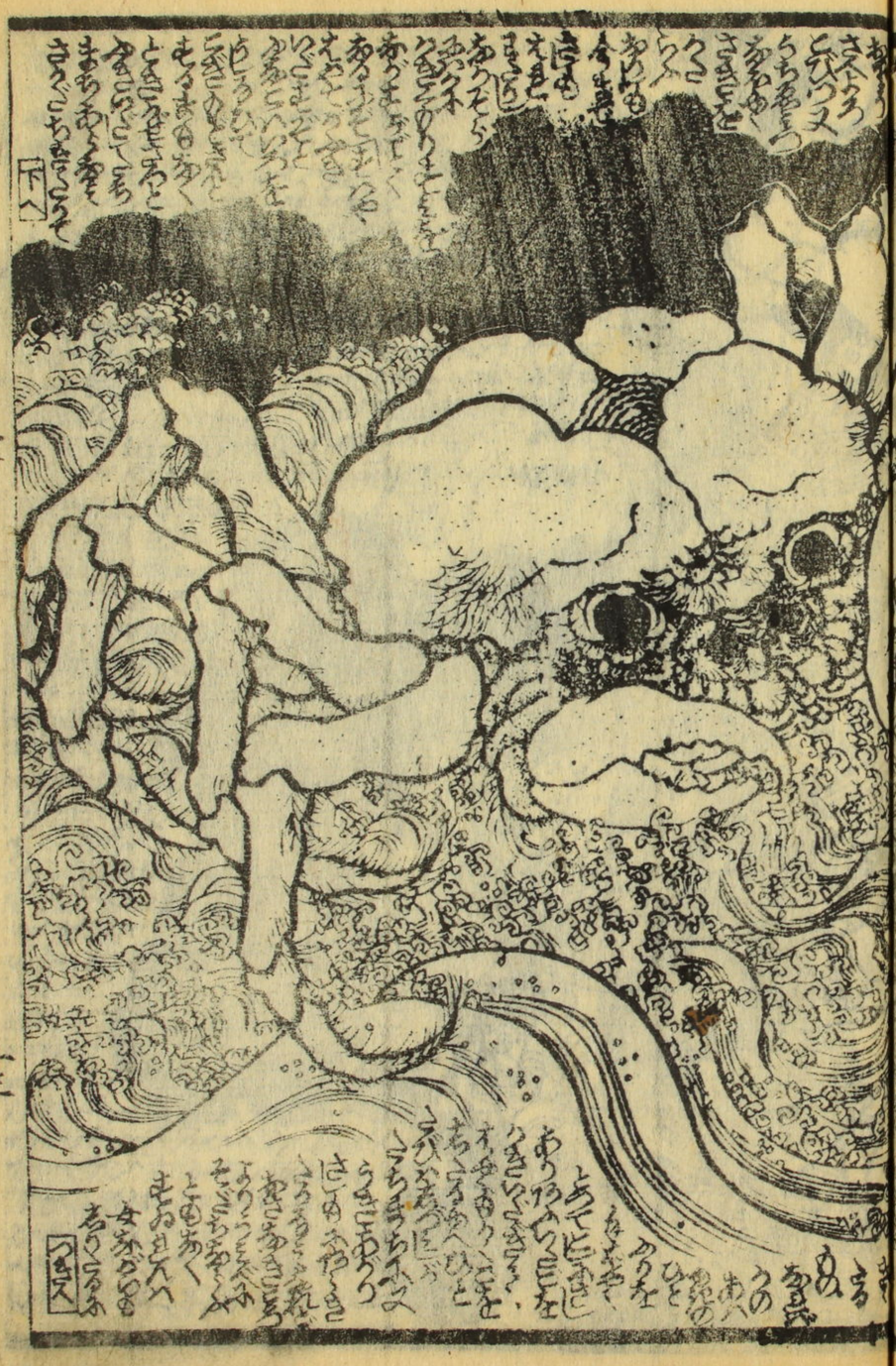


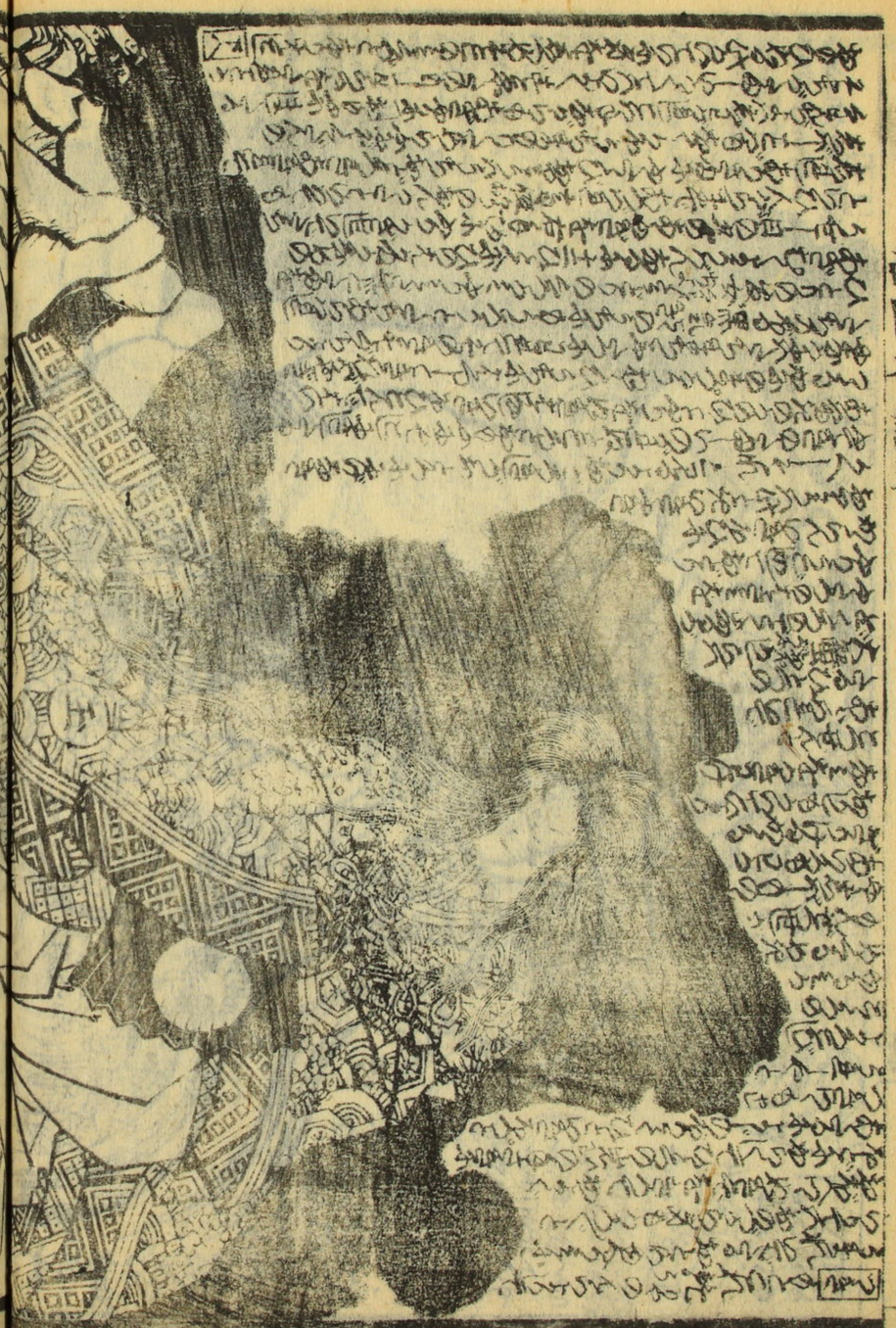


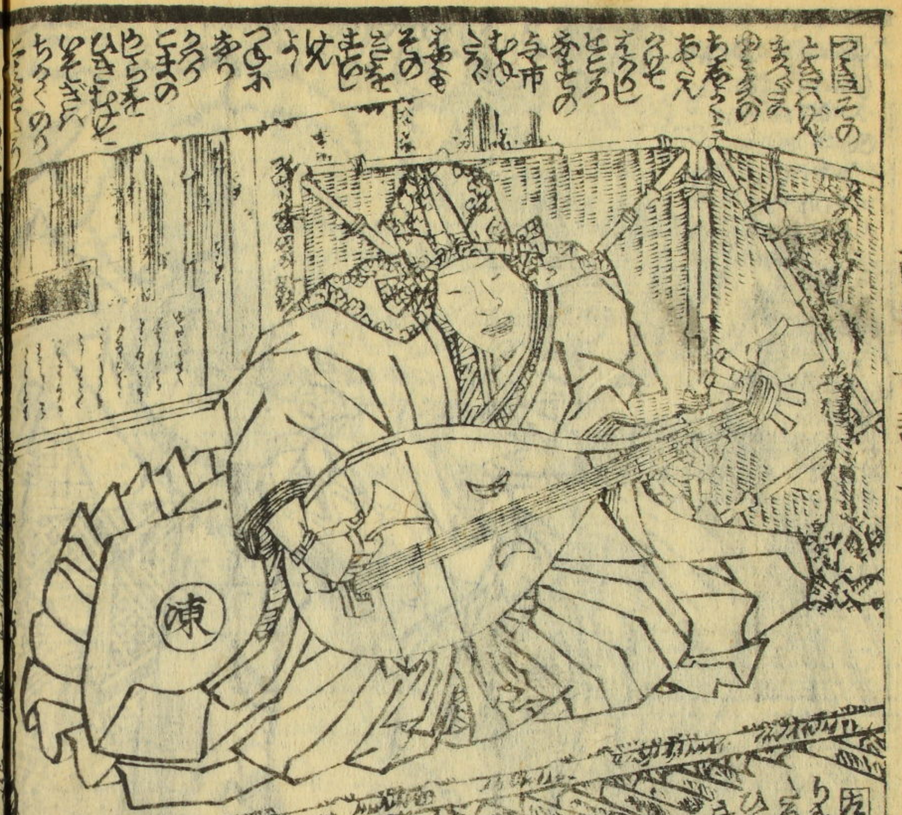


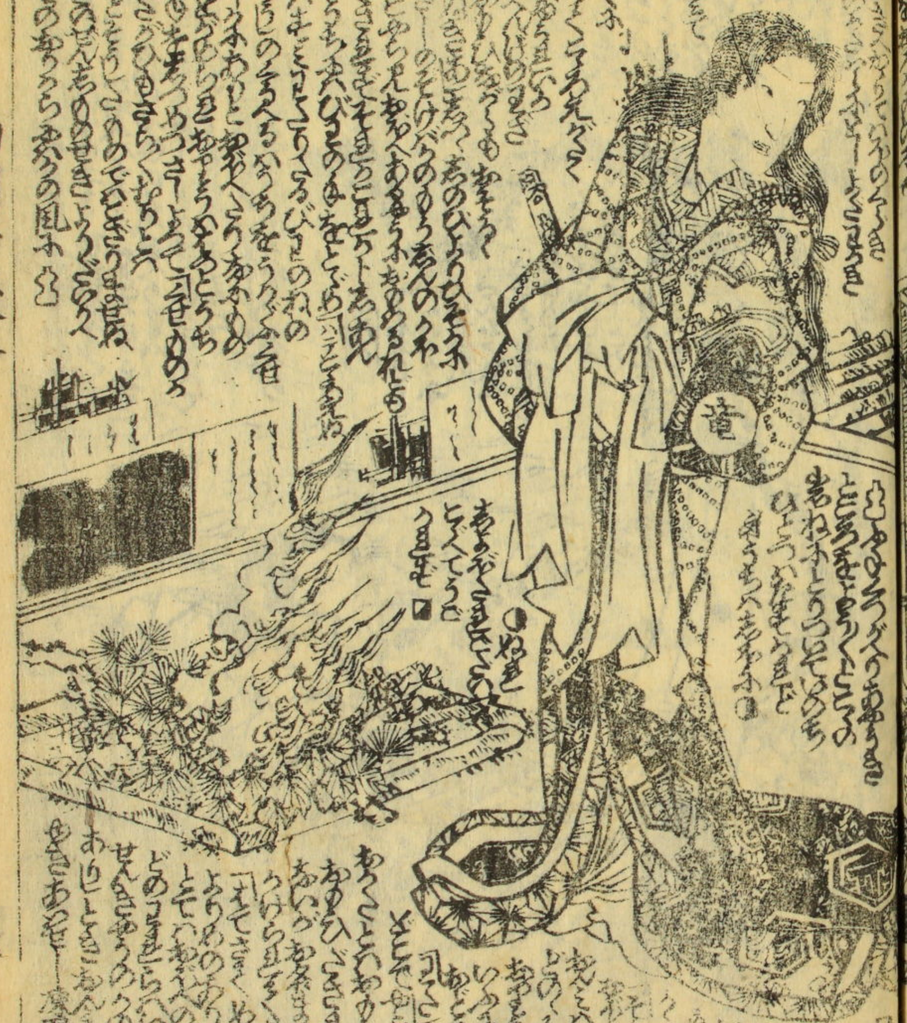
國貞画
春水作

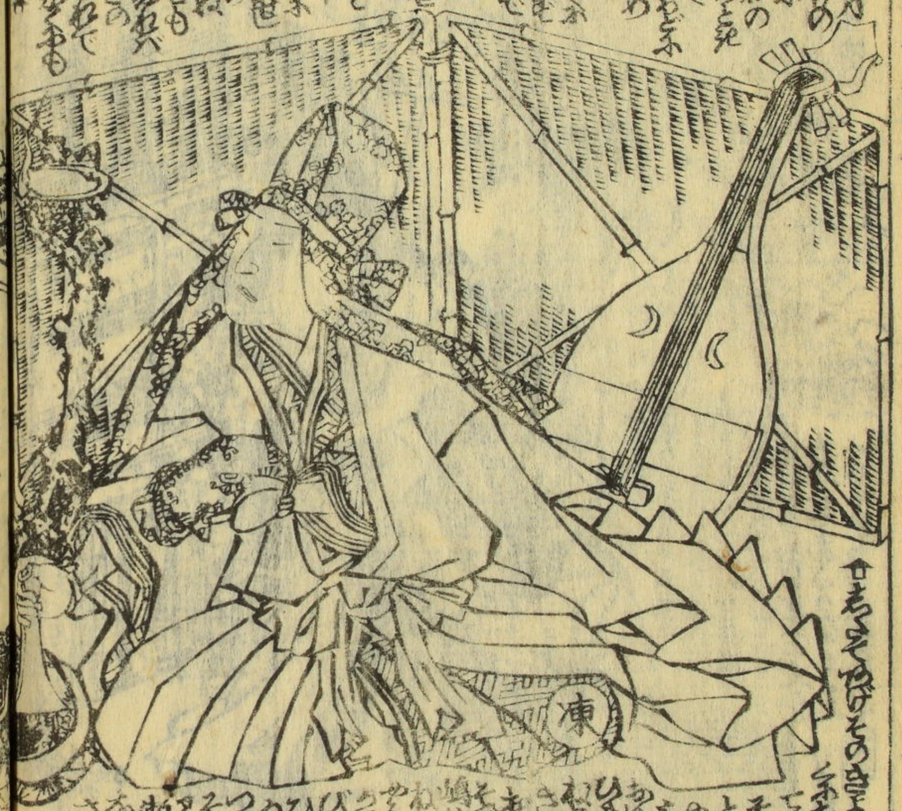


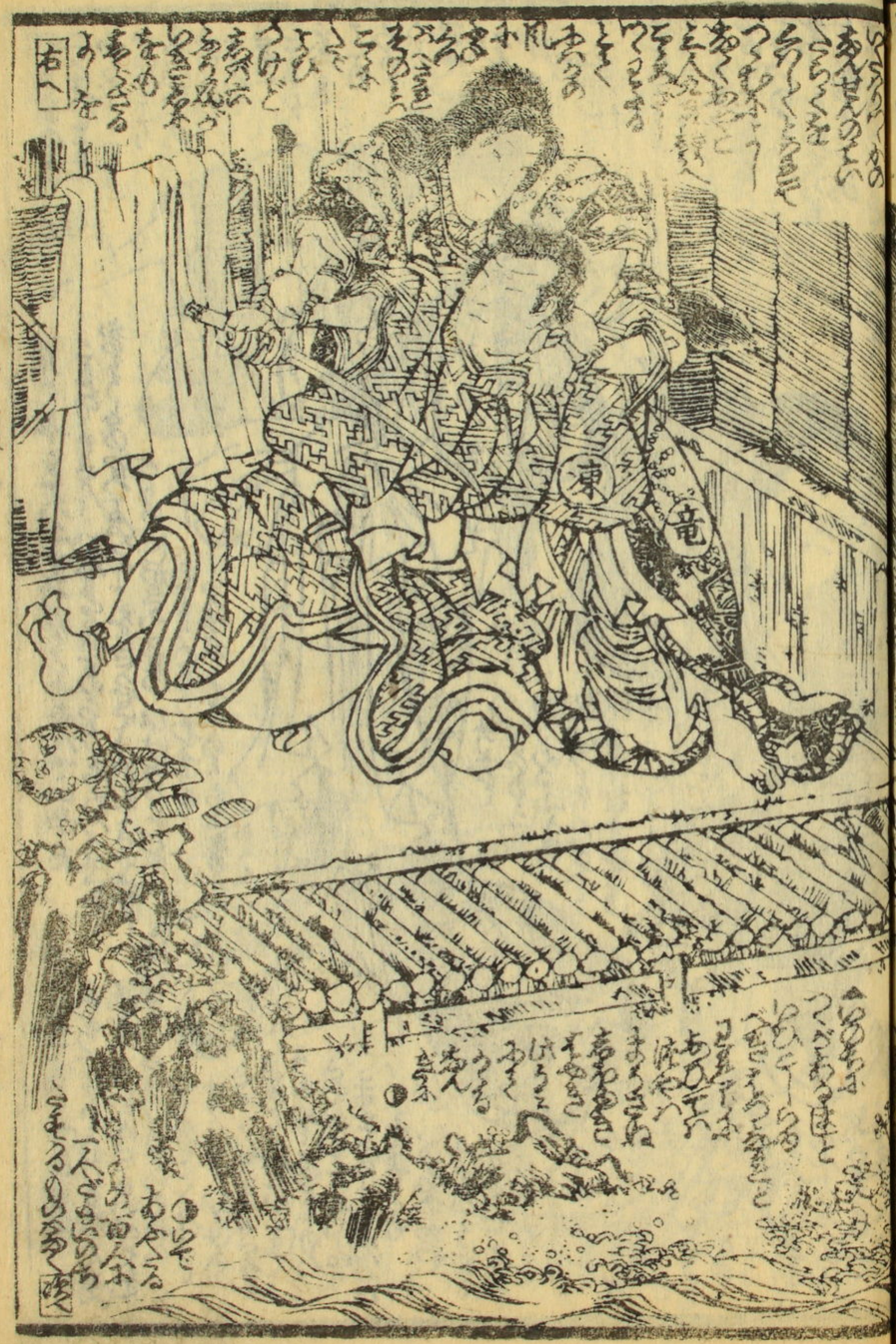




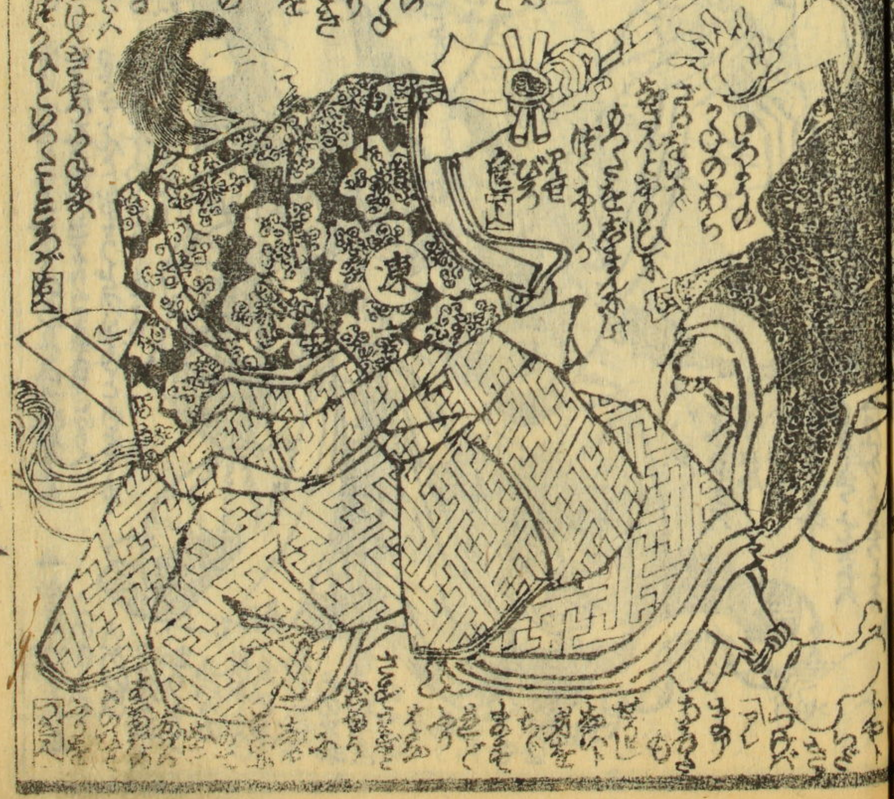






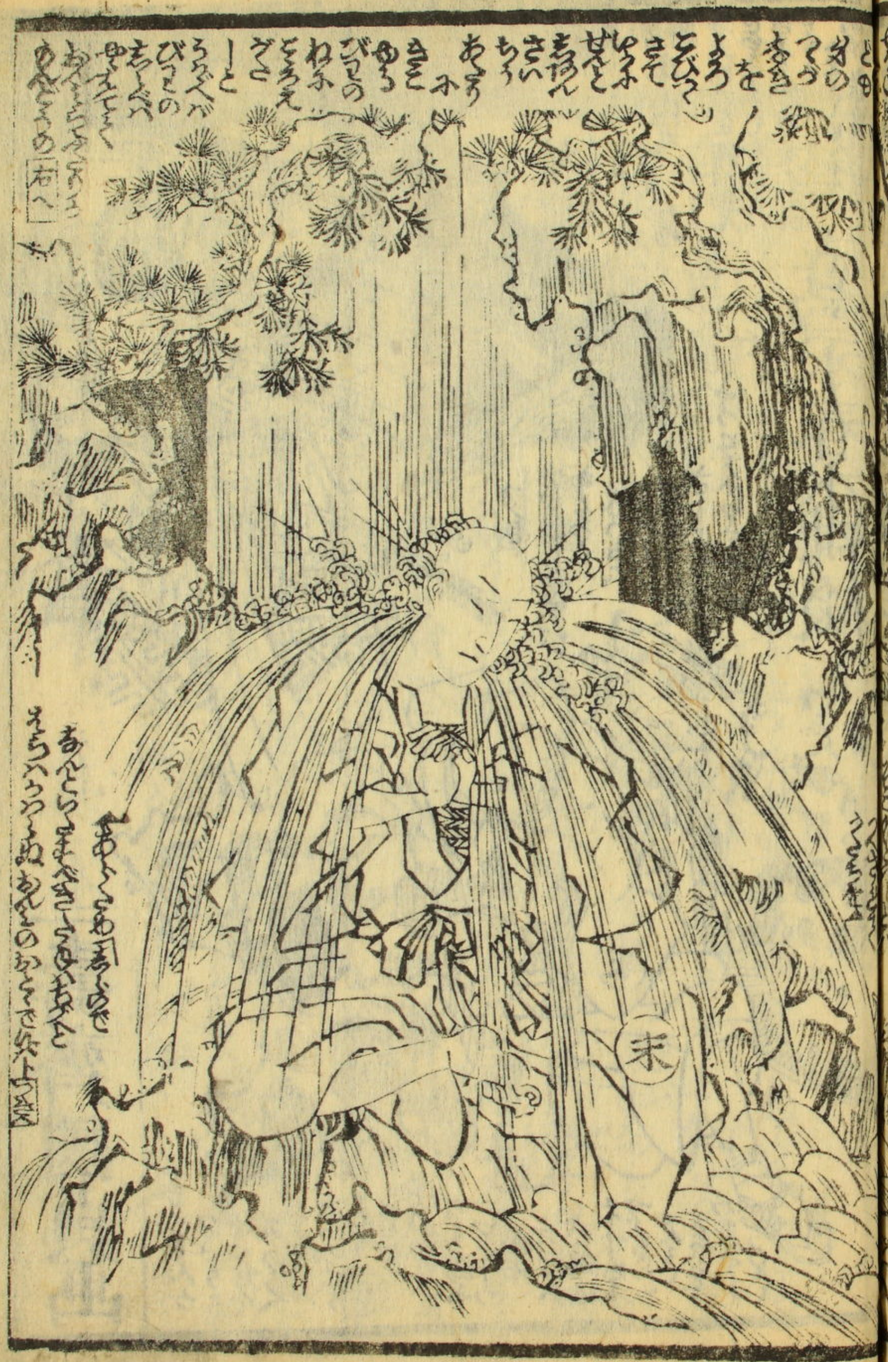


竜
妖


東

東
竜

妖



末

夫忠孝の道の大本大約人間の生まるるの基その心あらざる者ども自己ゞ思慮分別よりその據を取違ゆる者多く孝の似る不孝あり。忠の似る不忠あり。今本編の出るところの東田あぐりび妖齋ゞ死。似而非忠孝とぞいふものゝ然ゐあるにても柴六親子ゞ奸悪猶餘りあり。是ゐ仍て唯龍太郎ゞ至忠至孝賞ゆるゐ不道ゐ比ぶるときゝ又益りもなかるべし。総て世間普通の俗徒らゐ作者ゐゐるまで。善ゆもはそ。悪ゆもはそ。躰をきゆる瓢箪の。ねらくへと世を経るゆの多し。伏望らくへ起居進退ゐ一事も善を做んと念ひ一事も悪を退けんと日夜心ふ忘ゆそゞゐ終ゆ真の龍太郎ゐあらざる事よゆもあるぬほど。何と児童ゝも合点ゐとらふ。

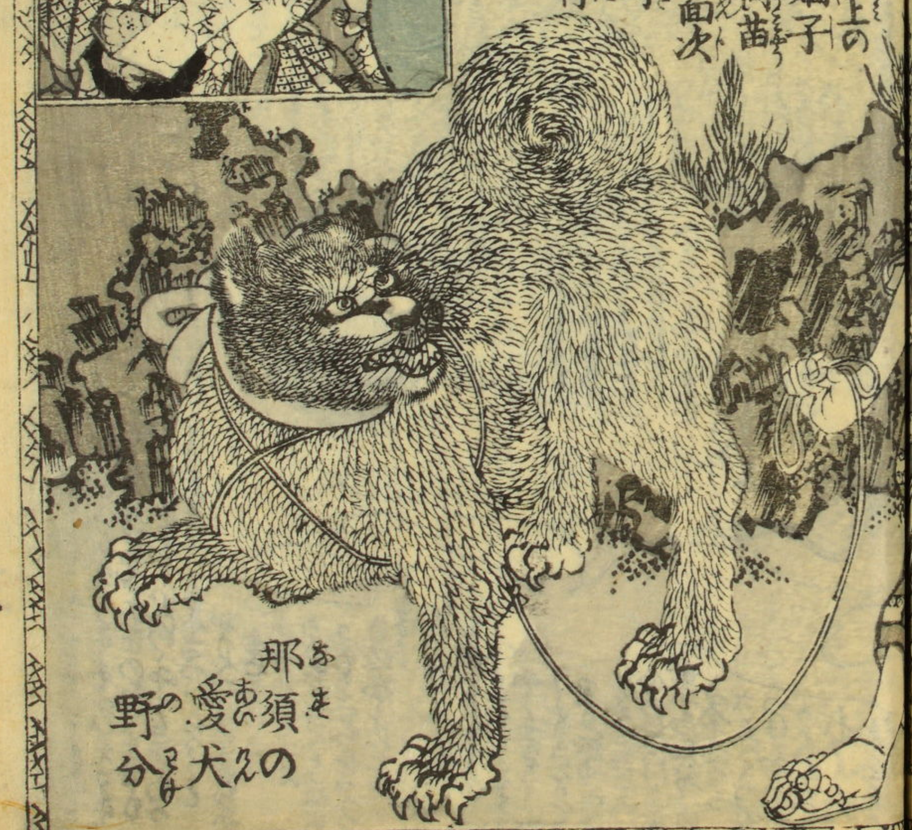
安政五稔午早春吉辰　爲永春水記

宗重の愛妾
阿竜の方

木村龍太郎

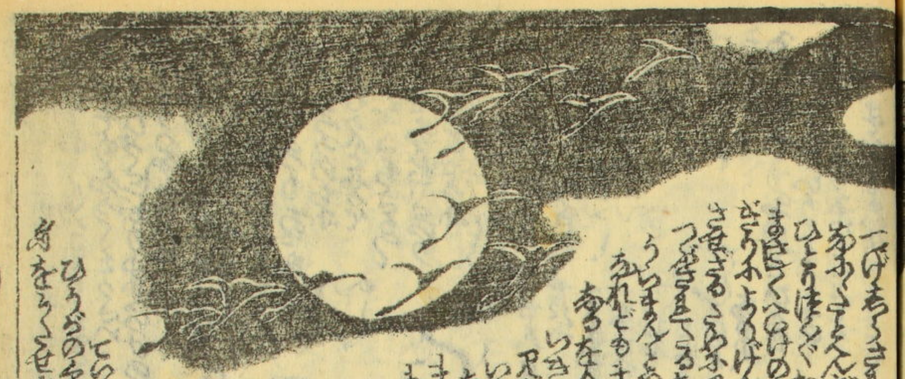
弓上愚太夫鉦方

宗重の内室ニ二の町

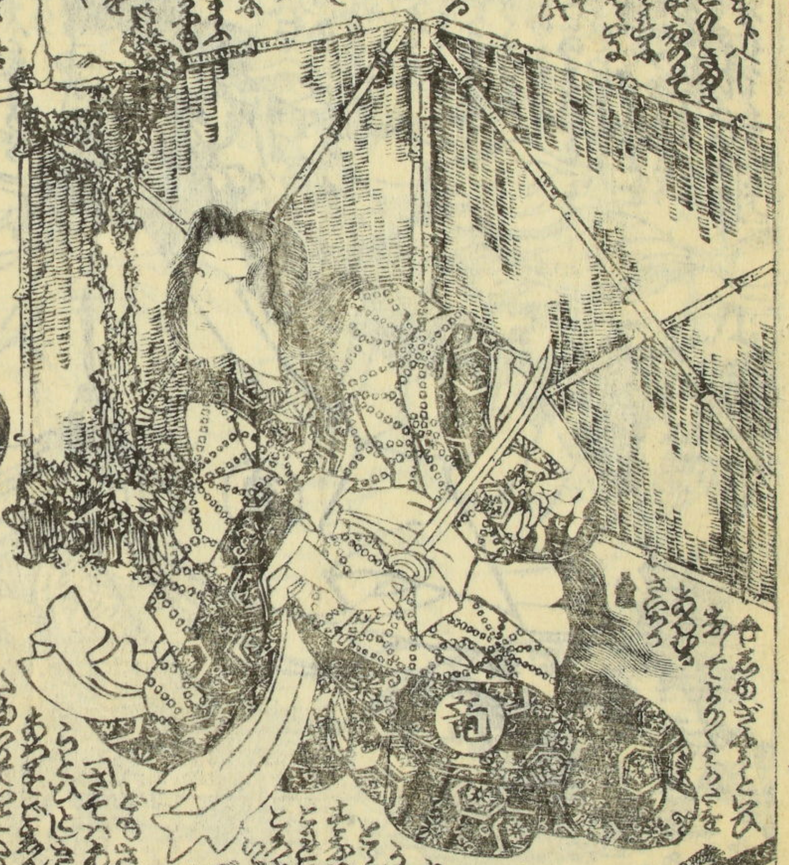


弓上の嫡子同苗二面次時行

那須のあもの愛犬野分



東


箱

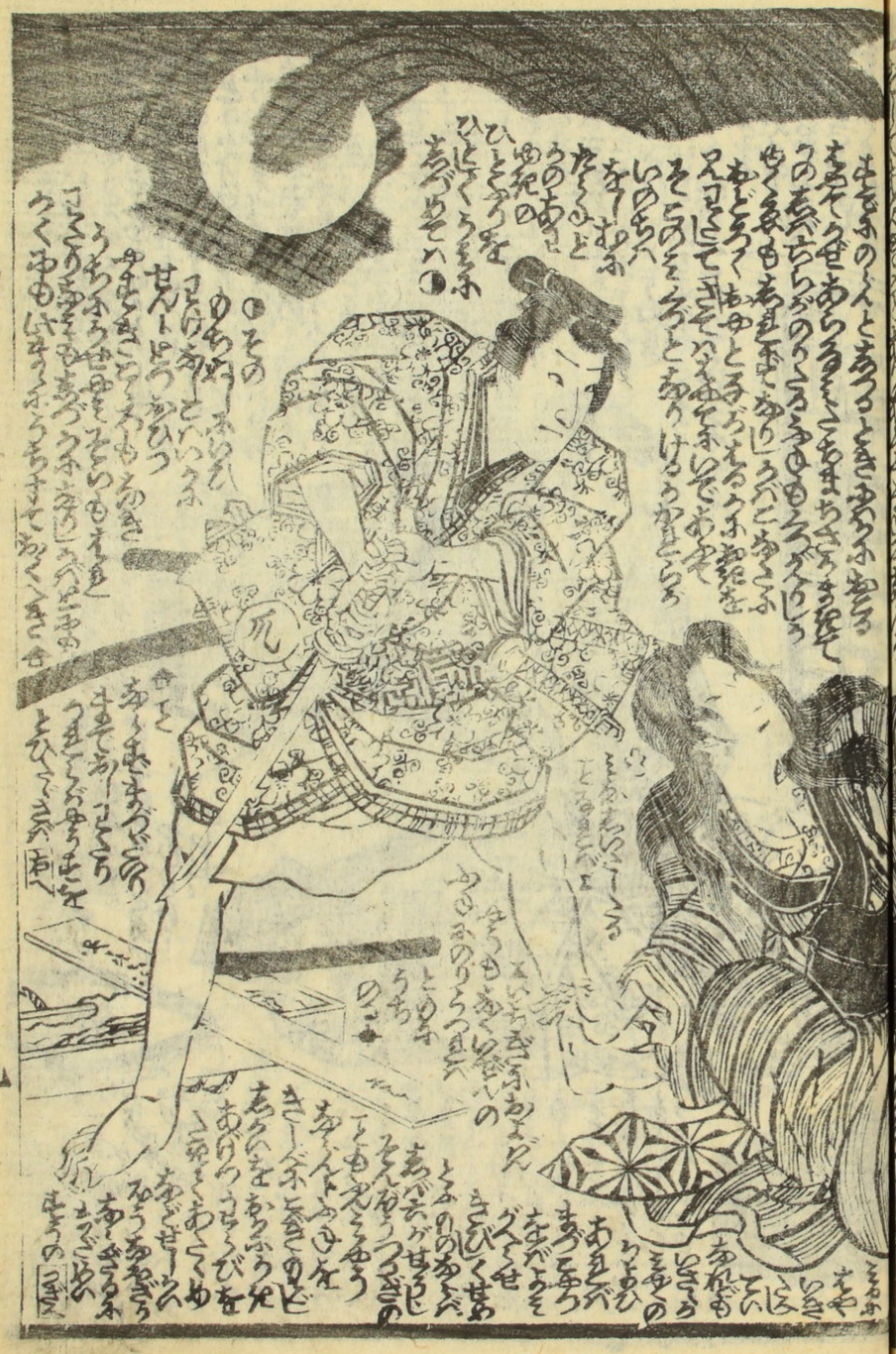
妖
東

つづき そのこゝろをしらずおそれて
ありしさまぐいろ〳〵のこと
だうりはこゝてのあらましこと
ものゝこゝろくあらはこと

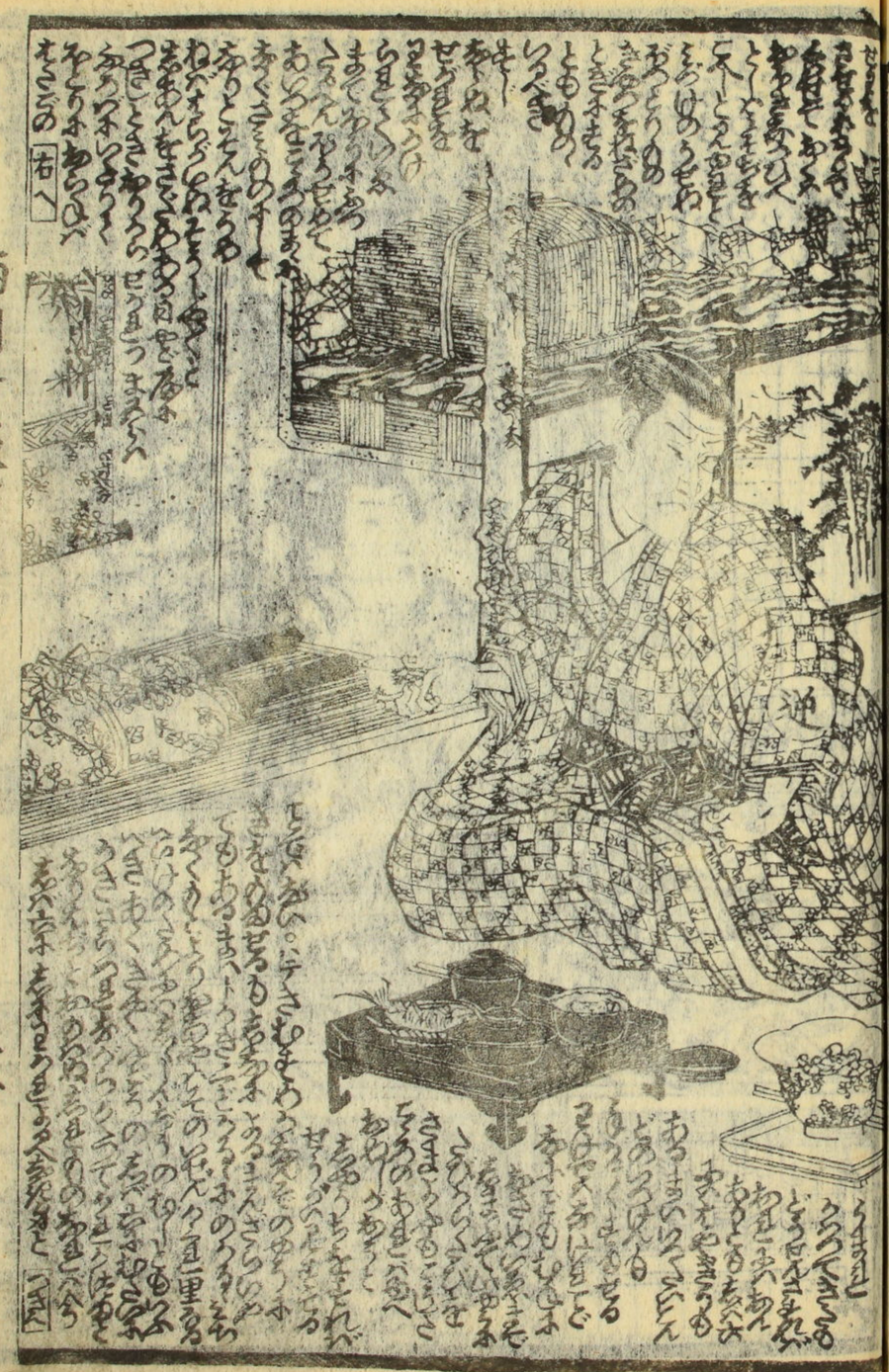
▲のちのちのことゝ
ふりもあやまちぐ
そのおさまりとてホト
いひいくえまをいひいろの

九十五

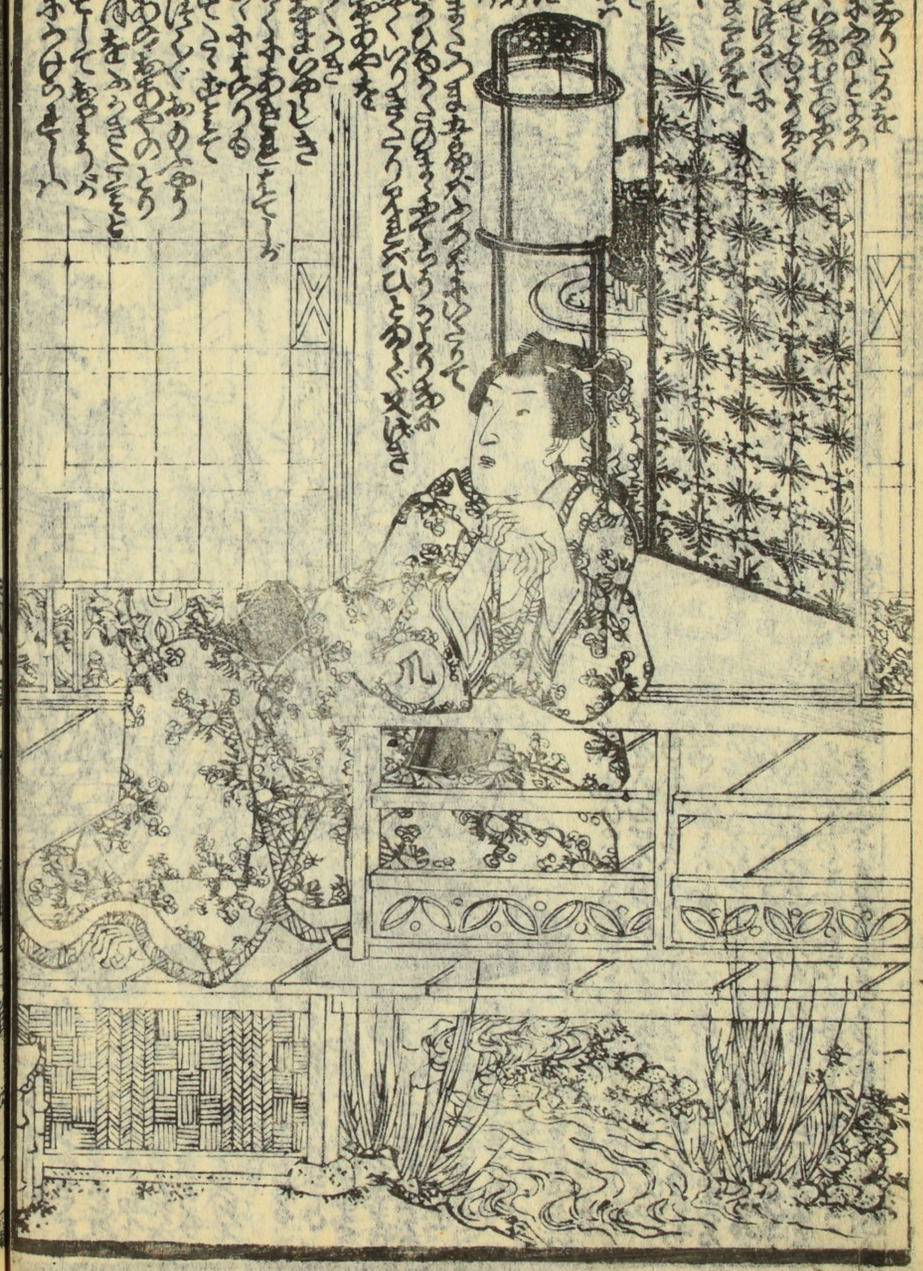
そのあきあじいあをあらべ〳〵ゝきて
つゝべ〳〵そのうちなんと
ゝまにべそのうちあ
ゝてまうしはこゝろ
ゝのこゝろ
ゝのこゝろ
ゝの

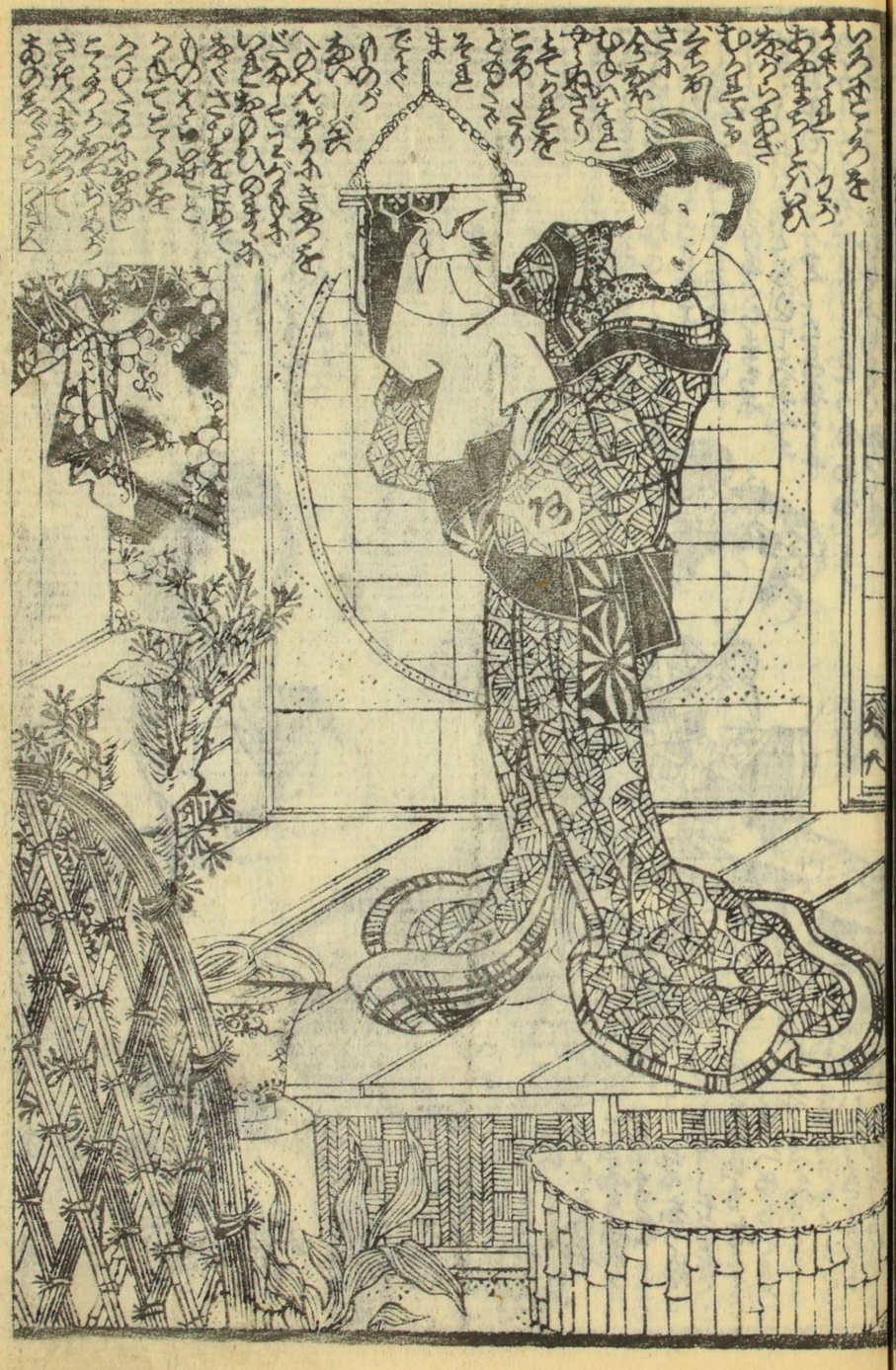


國貞画　春水補綴



つき

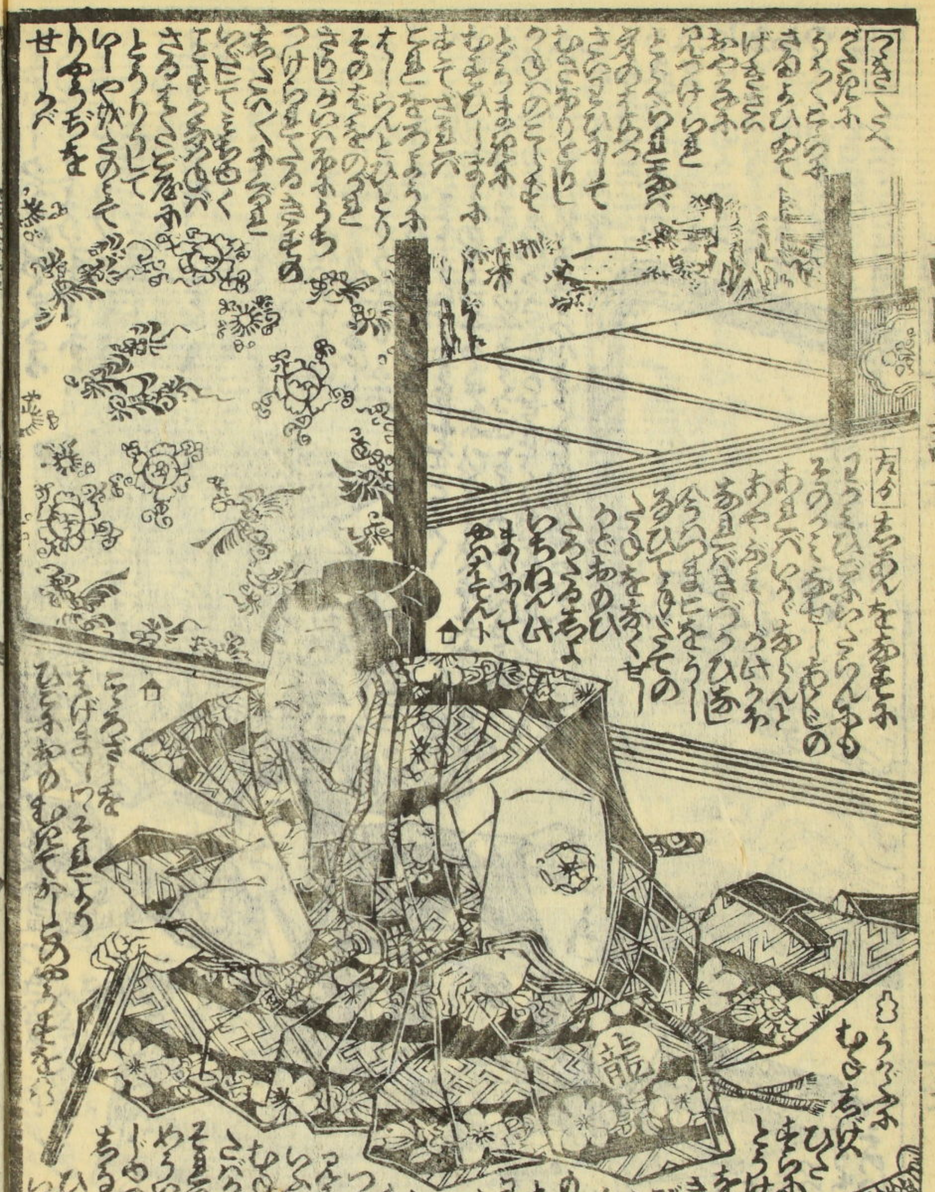


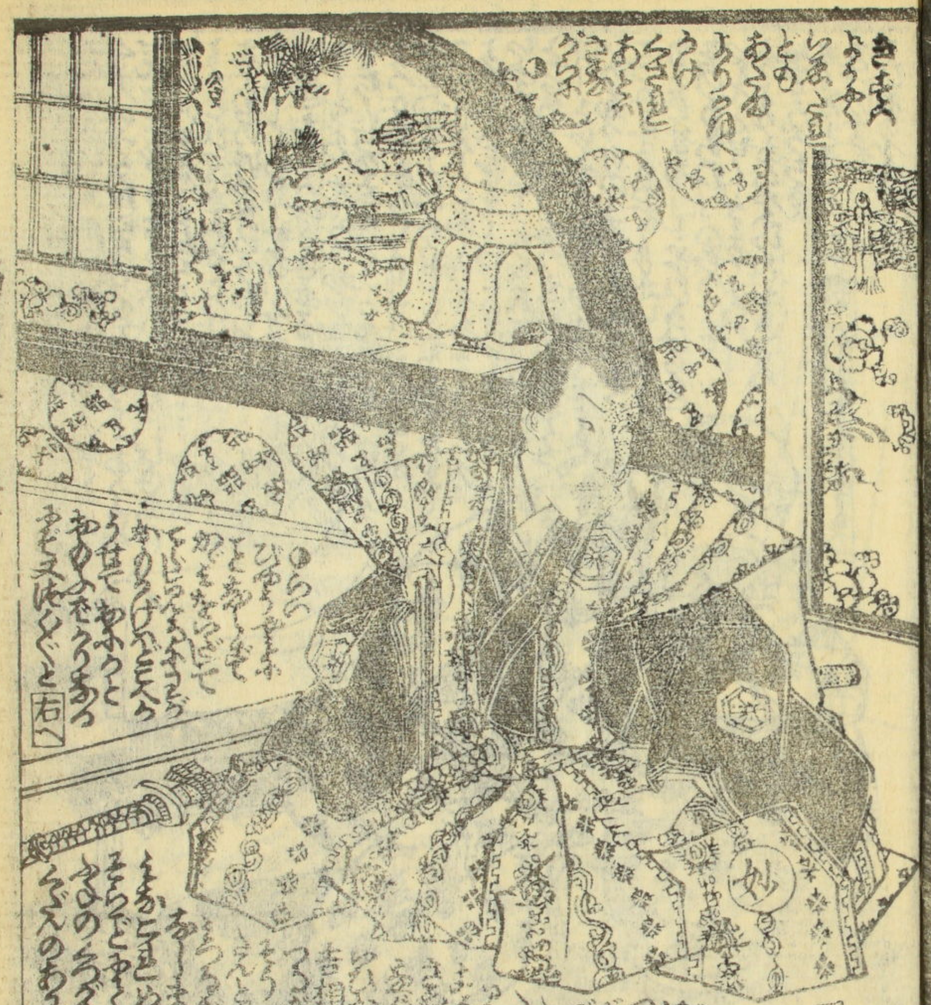


つき　さりとて　あだちのひばらも　すこし
ざうりの　あらをも　すげつゝ　もさまざまの
うりの　あるをも　うりつゝ　そのうりの
こえの　せいひょうそ　へ
あるひを　さらさんとひとの
せきを　うつぶへと　あるのこゑかと
あるこゝろの　ひそめを　とう　世へ
へ　ゝ　ゝ　ゝ

右
龍

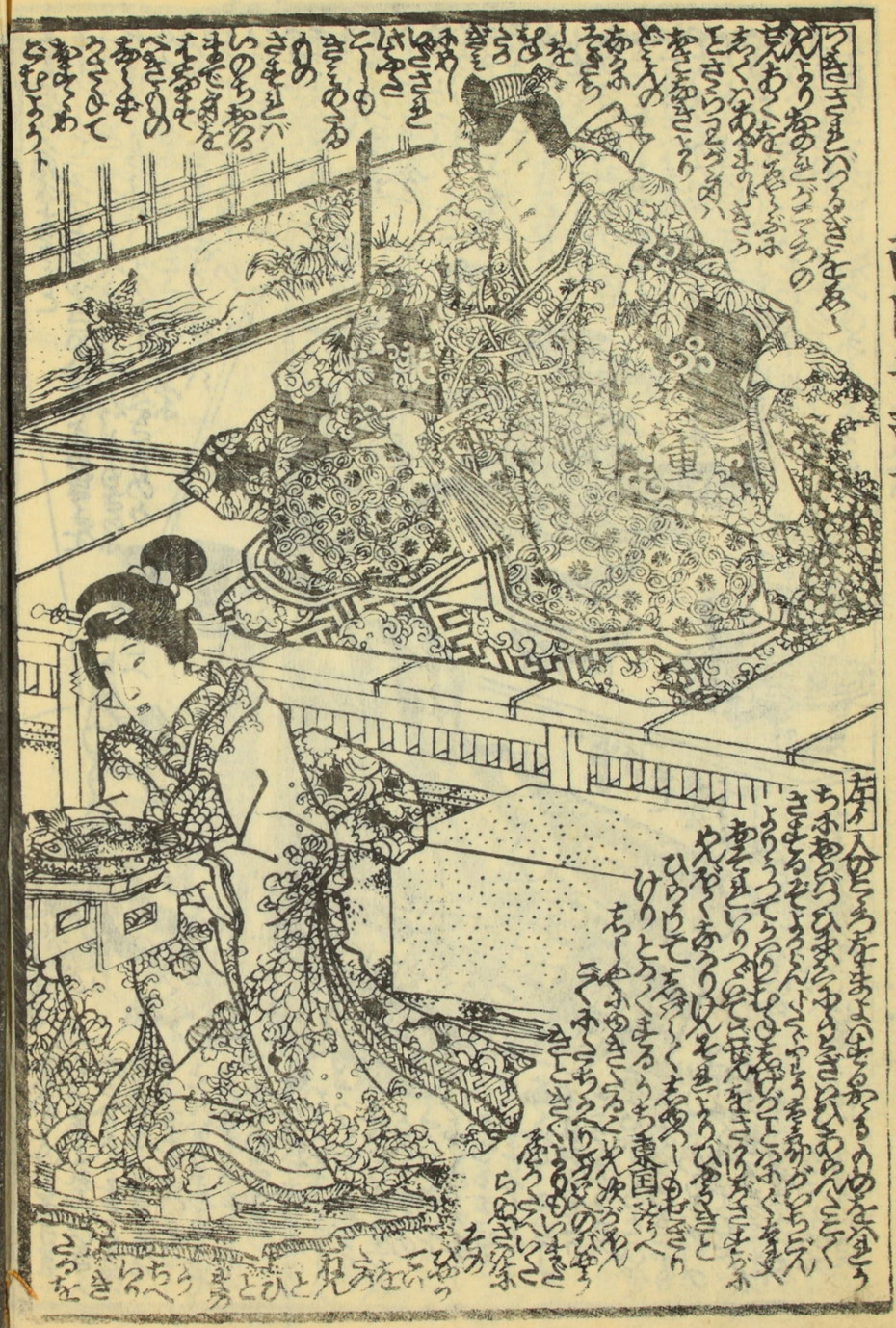
重
岡

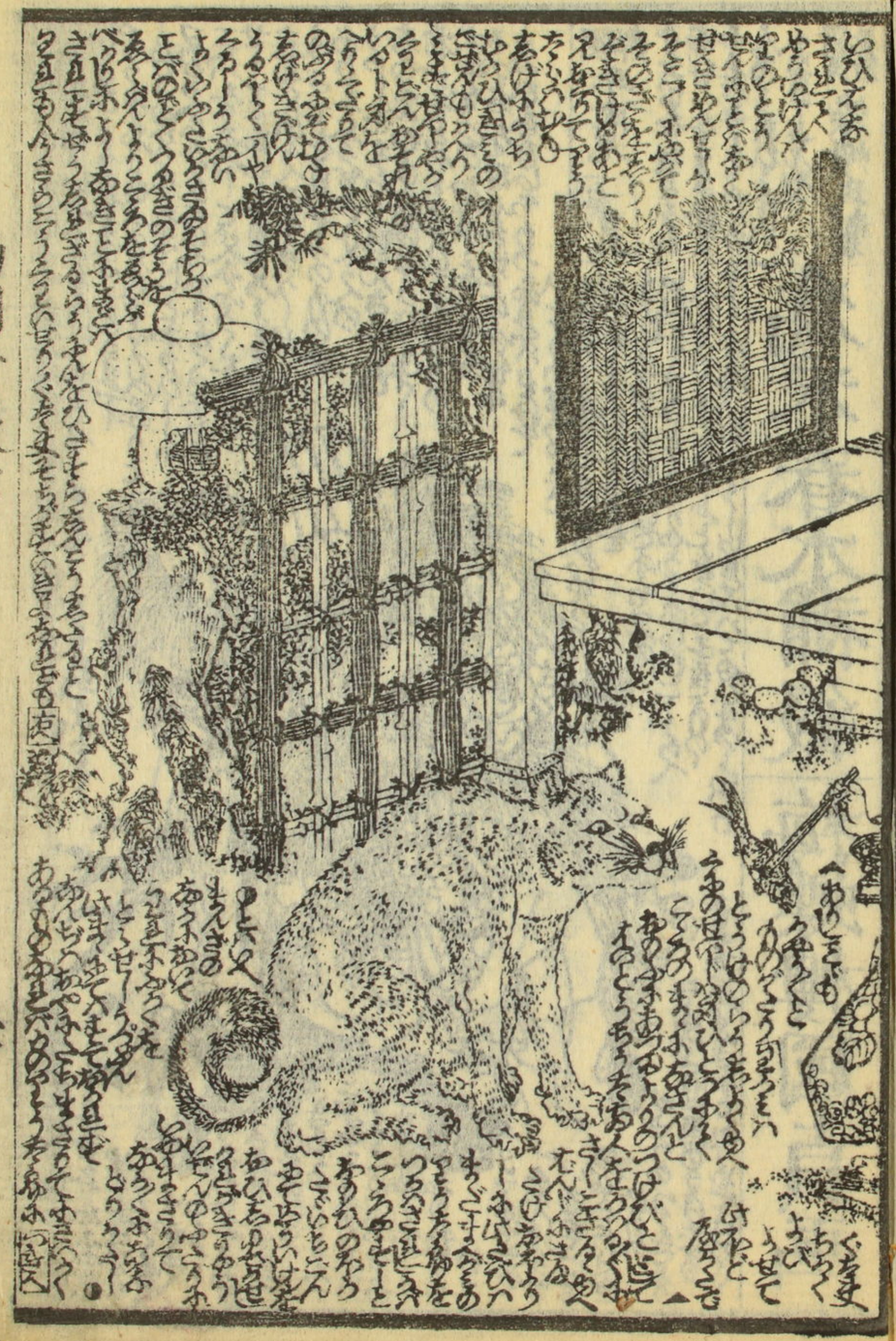




[右] しそんに、あまをそうらいけんへいあつて、「イヤ〳〵それではおよろこびなされますまい。よろこびのうちでなほどうぞとこうをもちひらまさうをおもちやうがよいぞや。」[左] [右] [左]

[右] [左] [右] [左] [右] [左] [

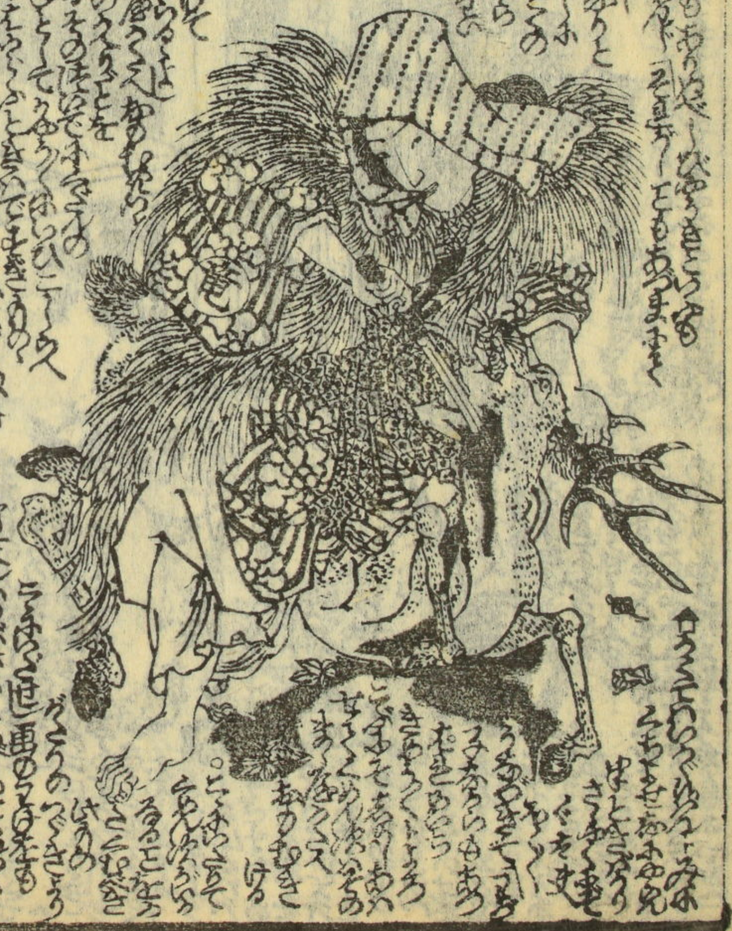




朝鮮牛肉丸 一函 貳圓

是ハ二ひきをおぎなふ丸薬にて毎日ひとつぶづゝの入湯ニ而ひとくすり

製造元 深崎氏製



爲永春水補綴 梅蝶樓國貞画

松飾徳若譚 五編 假名垣魯文作

今朝春三組盃 初編 山々亭有人補綴
二編 山々亭有人補綴
三編 三遊亭円朝作話

いろは節用女 初編 錦朝樓芳虎画図
十編 歌川周重 画

繪本太閤記 初編 孟齋芳虎画作
二編
三編

地本問屋 両國廣小路 加賀屋吉兵衛板